

令和2年 第6回

# 武蔵野市教育委員会臨時会

令和2年8月20日

於 412会議室

武蔵野市教育委員会



令和2年第6回武蔵野市教育委員会臨時会

○令和2年8月20日（木曜日）

○出席委員（5名）

教 育 長	竹 内 道 則	教育長職務代理者	山 本 ふみこ
委 員	渡 邊 一 衛	委 員	清 水 健 一
委 員	井 口 大 也		

○事務局出席者

教 育 部 長	福 島 文 昭	教育企画課長	渡 邊 克 利
指 導 課 長	村 松 良 臣	統括指導主事	小 澤 泰 斗

---

○日 程

1. 開 会
2. 議 案  
議案第15号 令和3年度使用中学校教科用図書採択について
3. 協議事項  
(1) 令和3年度使用中学校教科用図書採択について

---

◎開会の辞

○竹内教育長 ただいまから令和2年第6回教育委員会臨時会を開会いたします。

初めに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、武蔵野市教育委員会会議規則第36条の規定により、議長において、井口委員、清水委員、私、竹内の3名を指名いたします。

これより議事に入りますが、本日の協議事項、令和3年度使用中学校教科用図書採択については、7月1日に行われた第7回教育委員会定例会における協議で公開とし、傍聴を許可することを決定しております。

本日は22名の方から傍聴の申請がありました。会場内には20名おられ、定員を超えられる方については、別室でウェブ会議システムによって傍聴していただいております。

これより議事に入りますが、本日は協議事項、議案の順に進めたいと思います。

---

◎協議事項

○竹内教育長 協議事項1、令和3年度使用中学校教科用図書採択についてを議題といたします。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、本日の協議事項でございます令和3年度から令和6年度に使用する中学校教科書の採択につきまして、ご説明いたします。

初めに、この中学校教科書採択について、本日に至るまでの経緯をご説明いたします。

資料1「令和3年度使用中学校教科用図書採択について」をご覧ください。

今回の教科書採択を行うに当たり、資料裏面になりますが、教育委員会で円滑に採択が行われるよう資料等を提供するために、「採択協議会」を設置し、学識経験者やPTAの代表者、教員など、様々な立場の方に委員としてお入りいただき、教科書に関する協議をしていただきました。その際、実際の見本本や、「教科別調査委員会」で作成した資料を参考にさせていただきました。

また、各中学校に教科書を回覧し、校長をはじめ教員の方々から、教科書の内容についてご意見をいただきました。

あわせて、市民の皆様からも広くご意見をいただくために、6月12日から7月22日ま

で、各教科書の見本本を、市役所指導課教育推進室、中央図書館、吉祥寺図書館、武蔵野プレイスで展示いたしました。その際、32の方が閲覧し、29件のご意見をいただきました。また、教育委員会にも2件、要望書が寄せられました。これらは既にご覧いただいておりますが、本日は中央の机の上に置かせていただいております。

教育委員の皆様には、資料2に記載の各教科の目標を踏まえ、これまで多くの時間をかけながら、これらの資料や意見・要望をご覧いただくとともに、採択の対象となる教科書を読み、それぞれの教科書の内容や構成、特色について教科書研究を進めていただきました。

そして、8月6日には、非公開ではございましたが、第5回教育委員会臨時会を開催し、一つ一つの種目について十分に時間を取り、教科書を確認しながら「採択候補の案」について、ご協議をいただいたところでございます。

本日、改めて中学校教科書の全種目について、学習指導要領の教科順にご協議をお願いし、採択すべき教科書の「候補」をお決めいただきたいと思います。

初めに、事務局から8月6日の教育委員会臨時会における協議結果についてご説明した後、教育委員の皆様のご意見をいただき、種目ごとに一つの候補を決めるという形で進めていきたいと考えております。

そして、全種目の協議の後、議案として改めてお諮りいたしますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

よろしいですか。

それでは、特に質問がございませんので、各教科書の協議に入ります。

まず、国語について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○小澤統括指導主事 それでは、国語についてご説明申し上げます。

国語の教科書の発行者は4者です。

教科の目標は、資料2の2ページに記載のとおりでございます。

採択協議会の協議では、読書の幅を広げるためには、光村図書出版がよいと感じた。

光村図書出版は、全体的にバランスがよく、経験の浅い先生やベテランの先生も様々な切り口から教えられるので、活用の幅が広いように思う。

光村図書出版は、主体的・対話的で深い学びに取り組むという観点から、他の発行者と比べて、振り返りの記述も分かりやすく、主体的に学習を進められる工夫がされていると思う。子どもの学びを分かりやすく進めることができると思う。

三省堂は、中学生の発達段階と照らして、親切過ぎる説明が多く、子どもに主体的に考えさせることを妨げるのではないかという意見もあり、使い方の工夫が必要だということだが、よかったなどの意見が出され、光村図書出版と三省堂がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

よろしいですか。

では、説明と先日の臨時会の協議を踏まえ、国語で採択する教科書の候補について、ご意見をお願いします。

はい、清水委員、どうぞ。

○清水委員 それでは、主体的・対話的で深い学びができる教科書になっているかどうかという視点で比べてみました。時間がないので、各者のよいところを1つずつぐらい、紹介したいと思います。

まず、東京書籍ですが、「学びの扉」というところがあります。漫画で描かれているので、初めはどうかと思ったわけですがけれども、一つ一つ見ていくと内容がとてもいいんですね。生徒に言葉についての学びを深めていく上で、ぜひ考えさせたいという内容となっています。設定も身近にありそうなことで、生徒が考えたいような内容になっています。まさに主体的・対話的で深い学びとなっていると思いました。

それから、三省堂です。領域別教材一覧はとても見やすいと思います。どんな言葉の力をつけるのか、どういう教材なのかということがよく分かります。それから、「この教科書の使い方」というところですがけれども、レイアウトを工夫して、とても見やすい構成になっています。教科書の例示は細かいけれども、ちゃんと読めます。説明が端的でよいと思いました。さらに、三省堂については、活字とかインクの色、字の大きさ、そして余白など、教科書の見やすさは4者中、一番いいのではないかと思います。

続いて、教育出版です。言葉の地図、身につけたい言葉の力も優しい色合いで見やすくなっています。それから、「広がる本の世界」、これは生徒に読ませたい本が紹介されているわけですが、実によい本、中学生に読ませたいなという本が出ています。これは各者とも出てはいるんですけども、紹介されている本では、一番いいのは教育出版かなと思います。それから「学びナビ」というのがあるんですけども、学習に入る前に読むことで、教材に向かう姿勢が出来上がっていきます。このような構成というのは、ありだと思いました。

それから、光村出版です。教材のおしまいに、振り返りとして学習というのがあります。捉える、読み深める、そして考えを持つ、全てこの流れで構成されています。問いかけが非常に具体的で、生徒が主体的に、そして学び合いを通して考えを広げたり、深めたりできるようになっています。これは振り返りということでは、大変いいと思いました。

言語能力の育成と主体的・対話的で深い学びという視点で見ると、どの会社もいいんですが、一步、光村図書がリードしているかなという感想を持ちました。

以上です。

○竹内教育長 はい、ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 私は、主体的・対話的で深い学びの実現について、それから情報の取扱いについて、読み物の充実についてという3点を中心に教科書を読ませていただきました。

まず、一番の感想は、各者のレベルがとても上がっていて感心させられました。ですから、これを1つ選ぶというのはとても大変でした。

私も、4者について少しずつ言わせていただきます。

東京書籍。

読み物では、森鷗外、太宰治、芥川龍之介などの作家を取り上げていて、もう少し新しい作家、近代の作品が読めるといいのかなと思う一方、教科書でないと、こうした、今やいにしえと言っていいのか、大作家の作品に触れる機会がないのかもしれないと思いを直しました。ここで、この作品が読めることは、とても価値あることだと感じました。

それから、「ニュースの見方を考えよう」の取扱いで、ニュースをただ受け取るだけ

ではなくて、しっかり受け止めて、自分なりに判断していくという道筋を丁寧になぞっている学習を、3学年ともに置いているところ、とてもいいなと感じました。

三省堂。

グループディスカッションでの学びについて、丁寧に展開されています。

それから、情報の扱いについては、メディアが構成されたものについて、それを批判する能力を育成していくというところまで目指しているところ、工夫が感じられ、とてもよいと思いました。その情報を、ただ自分が選んで知るべき事柄としてだけではなくて、建設的に受け取ろうとする、そういうことが大切だということがよく伝わります。

教育出版は、私が一番評価したのは、SDGsを柱として扱っているところです。この視点は、どの教科にも必要で、国語の中では教育出版の扱いが一番深まりを感じていました。

光村図書出版。

教科書はとても美しいですね。レイアウトがとてもきれいで、これを使って学ぶ、これを使って授業を進める人にとって、とてもよいのではないかと、まず感じました。

それから、読み物の選び方がとてもよいと思いました。

ここで、1つご紹介すると、2年生の読書コラムで「海外文学へのいざない」というのがあるんですね。これは翻訳家の鴻巣友季子さんがお書きになっているところですが、海外文学へいざないながら、日本文学がどれほど美しいもので、言霊という概念に支えられている独特な文化であるということが、よく伝わるように書かれています。こういうコラムが随所にあるんですね、光村図書出版の教科書には。特にこれからますます外国語教育が盛んになって、それをみんなで身につけていこうという時代に、日本文学を広く世界の中で考える、受け止める。それから、海外のものを読むときに、その海外の背景、歴史、いろんなものを学べないとそれは味わえないというようなことを受け止めてほしいなと思うときに、とてもふさわしいと思いました。それから、この視点の中に、「分からないことこそが人生の宝物ではないか」という、ここが一番大事で、とても感心いたしました。このコラムは、幾つかほかにもあるんですけれども、中学生にぜひ読んでほしいと思うことができました。

情報の引用については、高校でさらに詳しく学んでいく前段階として、その学びの入り口としてふさわしいと思いました。引用文学という分野があるんですけれども、やはり引用するときのルール、それから方法、そういうことをここできちっと学んでおける



ということが大事だと思って、これも評価しています。それから、詩を大切に置かれているところも魅力です。

私自身としても、バランスの取れた構成に、光村図書出版を推したいと思っています。以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、もう一度、確認させていただくんですが、今のご発言の中では光村図書出版がよいというようなことで、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた、今いただいた皆様のご意見を伺った結果、国語につきましては光村図書出版を武蔵野市で採択する教科書の候補に決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 では、そのように決定いたします。

以上で、国語に関わる協議を終了いたします。

次に、書写について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、書写についてご説明いたします。

書写の教科書の発行者は4者です。

「書写」は「国語」の一部ですので、書写としてだけの目標を示してありませんが、指導内容等については、資料2の3ページをご覧ください。

次に、採択協議会の協議では、教科用図書の判の大きさについて、厳密にいうと使いにくいことはあるかもしれないが、実際に比べるとあまり差はないので、選択する上で判の大きさについてはそれほど大きな差は感じられない。

教育出版は、子どもの興味・関心を高める工夫として、行事等を生かすなど生徒の日常に近づけ、身近なものとして学ぶことができるように構成されていると感じた。東京書籍は、実用的課題が多く、生徒が取り組みやすいと調査委員会の報告がある。

教育出版の教科書は、国語の授業を行いながら、書写の教科用図書として活用できる

単元が入っており、連動して学習を進めることができる、言語活動に生かすことができるなどの意見が出され、教育出版と東京書籍がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、教育出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いいたします。

特に質問はございませんので、書写についてのご意見をお願いいたします。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 書写につきまして、私が気づいた点を幾つかかいつまんで発表します。

まず、東京書籍。

裏表紙には「保護者の皆様へ」というところがございまして、子どもたちのみならず、保護者に対する気遣い、温かみを感じることができました。

また、折り込みの部分では、日本の二十四節気が掲載されていまして、実用的で、気づき、その大切さというものが表れているなど。また、のし袋の書き方というのが取り扱われているというところで、のし袋は、どんなにデジタル化が進みましても、ついて回る大切な文化だと、感じたところです。

また、手書きの大切さが学べ、電子メールについての書き方についても触れられておりました。

また、仕事において書く文字の違いですね。どんな仕事で、こんな文字を使うんだよというところも紹介されていまして、社会に出るとき、その特徴、そしてその職種を選ぶときの楽しみなんていうものも、分かることができたと感じました。

次に、教育出版です。

先ほどと同じように、こののし袋について、とても細かい心遣いが感じ取れる構成になっていることが分かりました。

また、電子メールについては、触れられていない点もありますが、その他の部分が補完されているのではなかろうかと感じています。

この教育出版の中で、一番私の中でいいなと思ったところは、歴史的な文字について取り扱っているということで、これは武蔵野市における歴史をも身近に感じて、教科を横断したつながりがあると感じ取ることができました。

そんなことから、私の中では教育出版がいいと思っております。

次に、光村図書出版です。

裏表紙には、「保護者の皆様へ」という配慮がありました。

また、のし袋についての表記が見当たりませんでした。

もう一つ、文字について、文書の中での校正記号の表記が少なめに感じました。

次に、三省堂です。

他の出版社に比べると、文字の見づらさが、あったと感じた次第です。

また、のし袋についての説明はありますけれども、電子メールについての部分を見つけることができず、校正記号も目立たないような感じでした。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 学校を見学させていただくと、小学校も中学校も武蔵野市の児童・生徒は、ノートの字がとてもきれいで感心させられます。これは武蔵野市の教育が、それをずっと大事にしてきた特徴でもあり、ずっと大事にしていきたい文化だと思って、これからますます書写の授業が大切になると思います。

特にICT教育が進み、発展していく中で、文字の文化の豊かさということが、際立っていくだろうし、際立たせたいと思うところでもあります。

東京書籍。

手書きの特徴がよく表れていると思いました。面白かったのは、いろいろな職業と文字の関わりで、動物園、文字デザイナー、寄席の木札や講座のめくりなど、職業によっていろいろな書き文字が違うんですけども、その特徴を扱っているところが、日常生活とのつながりをじかに感じられてとてもよいと思いました。

ここに、学校の先生の板書の紹介も掲載してほしかったかなと思います。児童・生徒の皆さんは、学校の先生の板書に憧れて、きれいな字を書きたい、バランスのいい字を書きたいと思っているところも多いので。

三省堂。

書いて身につけようという意識がとても感じられました。書き込むことのできる部分もとても充実しています。それから、3年生のところに、教科書に「名言集を作ろう」

というコーナーがあるんですけども、中学校時代のいろんなことをここに書いて、自分なりの「名言集を作ろう」ということなんですけれども、これを手書きで、こうしていこうというようなお勧めなんですけれども、これは本当に三省堂らしいセンスだと思って感心いたしました。

教育出版。

とてもバランスのいい教科書だと思いました。平仮名の「ほ」の字のところの書き方に、これを誤りと言っていいのか、気をつけて使わなければならないところがあるような気がするんです。そのこと以外、問題はないのですけれども、ここは確かめたいなと思うところで。

それから、武蔵野市にたくさんお寺や神社や、公園の隅っことか、いろんなところに石碑があり、近年、文化財として指定されている。それはとてもうれしいことなんですけれども、教育出版の教科書の中に、城址にある石碑の文字の扱いについて詳しく書かれているところがあるのです。私は実は武蔵野市の石碑を使って子どもたちに字を書くという、書籍を模写して、何か書くというようなことがさせてあげられるといいな、一部分でもという夢を持っていて、これがその入り口になるのではないかと期待しています。

光村図書出版。

これからの時代において、デザイン性のある文字を書くという視点が本当に大切だと考えています。その点で、光村図書出版の教科書は、これからの時代にうんと役に立つ教科書だと感じました。

実は、教育出版と光村図書出版の間でとても揺れて、ずっと考えていたんですけども、いろいろなバランスを考え、その歴史的な文字についての取扱いの深まりということが、やはりどうしても心を離れなくて、私も教育出版を推したいと思っています。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

今の委員のご意見から伺って、採択についてお諮りしたいと思います。

書写につきましては、教育出版を武蔵野市で採択する教科書の候補に決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定をいたします。

以上で、書写に関わる協議を終了いたします。

次に、「社会科 地理的分野」について協議を行います。

説明をお願いいたします。統括。

○小澤統括指導主事 それでは、地理についてご説明申し上げます。

地理の教科書の発行者は4者です。

社会科の目標及び地理的分野の目標については、資料2の3ページに記載のとおりでございます。

採択協議会の協議では、帝国書院は、基礎・基本の定着や補充的・発展的な教材が適切に取り上げられているということや、コラムや掲載されている内容にほかの発行者より深みがある。

帝国書院は、「写真で眺める」のページが充実している。掲載されている風景の写真が、生活に密着していて分かりやすい。

東京書籍は、柔らかく見やすく感じたが、毎時間設定されている単元の問いが長過ぎて読みにくいように思った。一方で、帝国書院は単元の問いについてはよく捉えられているように感じたなどの意見が出され、帝国書院、東京書籍がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、帝国書院を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

特に質問ございませんので、地理についてのご意見をお伺いします。

はい、清水委員、どうぞ。

○清水委員 4者の中で言うと、東京書籍、教育出版、それから帝国書院は採択してもいい、候補に挙がると思います。多面的・多角的に考察すること、思考力・判断力を高めるということに着目して考えると、どの教科書会社も工夫が感じられますけれども、少し帝国書院の内容がよいという気がします。

各者、具体的に申し上げますと、まず東京書籍は、表紙の裏に「世界の気候」というの

があります。これを基に、まず考えるんですけども、世界自然遺産の写真が16ありまして、次に「持続可能な社会の実現に向けて」という内容があります。これはとてもいいと思うんですが、ここでSDGsに触れることがよかったのかなと思いました。

それから、「学習の振り返り」ですけども、まず地理上の確認、それぞれの地域の特色を捉えて、それについて表にまとめたり、グループで話し合いをしてそれぞれ発表したり、主体的・対話的で深い学びとなるような構成になっています。

右ページ下のチェック・アンド・トライというのも、読み取りや、見方・考え方も含めて学習したことの整理につながると思いました。

教育出版です。

「さあ地理の学習を始めよう」、最初のところですね。これは地理の学習をスタートするときに、知るべき内容が網羅されていて、いいなと思いました。小学校で学習したことを振り返るページもよいと思います。

さらに、中学の社会の学習、そして地理的な見方・考え方を学ぶことができるので、目次までのページというのがとても充実していて、学習を始めるときに参考になると思いました。

「地理の窓」が、その国の様子を伝えていて、理解する上でとても参考になるなと思います。

帝国書院です。

「節の学習を振り返ろう」、まとめですけども、地理上の確認の後、地域の特色、背景にあるもの、課題など、多面的に追究します。重厚な問題が非常に多いですね。よい問題も多いんですけども、これを取り扱っていると時間が少しかかり過ぎるかなという気もしますが、学習指導要領では多面的・多角的に考察することや、生徒の思考力・判断力を高めることを大事にしていますので、武蔵野市の生徒の実態を考えると、この重厚さというのはネガティブではなくて、長所になっているのではないかと思います。

それから、日本文教出版ですけども、地理、プラスアルファ、それぞれの国の別の角度から情報を得て、国々の理解を深めるということ、これはいいなと思います。それから、学習を始める地域の地図の等高線がはっきりしているので、山の様子や平地の様子がよく分かって、これはこれでいいなと思いました。

ただ、少し残念だったのは、1の世界の地域構成、5ページですね。世界地図と写真で、人口が多い国、面積が広い国、これ10か国ずつ答える問題があります。上位5か国

は写真があるんですけども、下位5か国については写真がないんですね。また、㊦というところが指している国がどこなのか、分かりにくくて、このページが残念だなと思いました。

4者を比較すると、学習指導要領で求めていること、それから武蔵野市の生徒の実態を考えると、帝国書院かなと思います。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 4者、申し上げます。

東京書籍。バランスのよさを感じました。それから、先ほどから清水委員も言われていますけれども、多面的・多角的に考察したり、それを、問題解決に結んでいくということになるわけですけども、その学習の道筋が全体的に示されていると思いました。

教育出版。SDGsが初めに置かれていて、そこからスタートするという視点がとてもいいと思いました。それから、「地理の窓」というコラムがたくさんあるんですね。これは本当にいろんなことに関わっていて、パスポートのことはどうなっているとか、食生活の変化とか、環境問題、日本のことももちろんそうだし、私たちに身近なこともそうだったのかというようなことが、たくさん学べるようになっていて、こういうことを柱に立てた授業というのは面白いだろうなと感心しました。これは語り合うためのよい題材になるだろうと思います。

帝国書院。帝国書院も巻頭にSDGsが置かれています。何より迫力があって、学ぶ意欲が湧くつくりになっています。インパクトがあるんですね。地理を学習する上で、基礎的な技能というものがあると思うんですけども、まずそれをしっかり身につけて学んでいくという工夫がされていると思いました。

日本文教出版。読み物として、地理的センスを学んだり、身につけたりするページが並んでいると思いました。その読み物のよさというものがある一方で、解決しなければいけないいろいろな問題がある中、もう一步、事柄を掘り下げてみてもよいのではないかと思うところがありました。でも、これは授業の中で、先生と生徒が掘り下げていく問題なのかもしれません。そこはちょっと難しいところだと思うんですけども、教科書としてもう少し強さがあるといいのではないかと感じたのです。先ほどお話ししたよ

うに、地理的センスを学べるという視点はとてもすてきです。

そして、私も帝国書院のバランス、それから地理を学習する上の基礎的なことがしっかりしている点で、帝国書院を推薦したいと考えています。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、皆様のご意見を伺った結果、それぞれに特色といたしますか、よい点がありますけれども、地理につきましては、帝国書院を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、地理に関わる協議を終了いたします。

次に、「社会科 歴史的分野」についての協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、歴史についてご説明申し上げます。

歴史の教科書の発行者は7者です。

社会科の目標及び歴史的分野の目標は、資料2の4ページ中段に記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、主体的・対話的で深い学びを進めるために、単元を通した問いや1単位時間の学習課題にも興味を持たせることが重要である。

教育出版は、単元の標題の上に年表が配置されており、学習課題と年表を意識して学習に取り組むことができる。

単元を通した学習課題が明示されており、子どもたちに思考を促すという観点から、教育出版と東京書籍がよい。

教育出版は、見出しのつけ方に工夫があって、子どもたちは、面白さに引かれて「読んでみたい」と興味・関心を持てるのではないかなどの意見が出され、教育出版、東京書籍がよいのではないかと協議結果をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦、協議がまとま



ったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いいたします。

特に質問ございませんので、歴史についてのご意見をお願いいたします。

はい、清水委員、どうぞ。

○清水委員 全体を見ていったときに、東京書籍と教育出版は、教科書の構成であったり、内容が少し他者よりもいいかなと思います。特に学習の振り返りについては、東京書籍がよくできているなと思いました。

各者、お話ししたいと思います。まず東京書籍ですけれども、教科書の右ページ下のチェックとトライというのがありますけれども、これとてもいい問題が多いですね。授業でも、個人の復習でも活用できると思いました。

また、欄外の資料が参考書的で学習に直結していてよいと思います。

そして、学習の振り返りですけれども、基礎・基本のまとめというところですが、語句の説明、年表完成、理由等の説明、探究のステップでは、簡潔な質問、アニメの人物がヒントを出しているというようなところ。探究課題というところでは、主体的・対話的深い学びにつながる学習展開は可能となっていると思います。

あと太平洋戦争、第2次世界大戦、戦争関連の記述ですけれども、欄外の写真で、当時を知る上で参考になる写真が数多く出ています。また、平和という視点においても記述がありまして、他者もあるんですけど、ここはしっかりとしているなと思います。学習の振り返りも、客観的事実の整理と深い学びの両面でいいかなと思いました。

それから、教育出版です。スケールを等間隔に取った年表がありました。これはいいなと思います。欄外の資料は、本文と関係が深くとてもいいなと思いました。戦争前後の記述ですけれども、平和を願う思いというのが、歴史を知ろうというところに書かれています。ここを読むことによって、伝わってくると思いました。

それから、帝国書院ですけれども、第何節の問いを振り返ろうというところがありますけれども、とてもよい問題が多いと思いました。それから、確認しよう、説明しよう、狙いがとてもいいと思います。ただ、本文から書き出してみようというその問題の出し方は、どうかなと思いました。

それから、山川出版社ですけれども、年表に、日本の年表と同時期の朝鮮、それから中国、これが年表に出ていて対比ができるようになっている。これは他者にはない特徴だ

なと思いました。これはよいと思います。ステップアップという生徒に考えさせる問いかけがあります。いい問題もあるんですけども、考えにくい内容も散見されました。例えば71ページの「幕府とは何ですか」は漠然とした問いですね。そんなのがありました。

それから、細かいところなんですけれども、首里城を戦後復元して、2000年に世界遺産になりましたという写真と記述があります。これは世界遺産になったのは基礎の部分なんですけれども、ここの書き方によると、まるでその正殿が世界遺産になったと捉えかねないような記述になっているところが、ちょっと残念だなと思いました。

日本文教出版です。大単元の導入では、大きい絵を出して、これを比較し、生徒が考えて発表し合うことで、主体的・対話的で深い学びになっていくというところはいいなと思いました。それから、「深めよう」というところ、これは主体的・対話的で深い学びにつながる内容かなと思います。

それから、学び舎ですけれども、これだけ教科書の形が違って縦が長いんですね。大判で、特徴が生かしているといいのかなと思ったんですけども、本文を見てこのよさが生かし切れてないと感じました。重要語句は、他者については太字で示されているんですが、学び舎は太字などの強調がないので、読んでいてメリハリ感が欠けているかなと思いました。

それから、育鵬社です。6ページ、7ページに「歴史ものさし」というのがあります。これは歴史の流れが非常によく分かって、古墳時代から令和の現代まで約1700年、これを17センチとすると、縄文時代というのは1メートル70センチになるんですよという、こういうスケールで、その歴史の時代の長さみたいなものが伝わっていく、実感として伝わってくる。これはいいかなと思います。

それから、右ページ下の質問、これもとてもいいなと思います。大単元で、導入で絵を見ながら考えるというのは、日本文教出版と同じように、これもいい取組と思いました。それぞれの会社に、よさはあるわけですけども、学習の振り返りがすばらしいということで、7者の中では東京書籍が武蔵野市としてはよいかなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 私は、この教科書をどのように、武蔵野市の子どもたちが使っていくのか、そういう観点で、特にこの教科書の初めのほうに、「この教科書の使い方と学び方」、が載っているので、どのようにまとめられているのか、他者との比較において拝見させていただきます。

まず、全体から言うと東京書籍が使いやすくいいと思ったのですが、1者ずつお話ししていきたいと思います。

まず、東京書籍。

今お話しした「この教科書の使い方と学び方」についてです。使い方というのは、この教科書の全体がどのような構成になっているか、ページのレイアウトがどうなっているか、どのようなマークが使われているか、などを中心にして書いていただけるとよいと思います。

もう一つの、学び方というのは、学びの各段階です。そのステップと教科書との関係が分かるかという内容です。このような観点で見ますと、東京書籍は、大変整理されていていいと感じました。

それから、教科書の上、下、横に小口がありますけれども、そこに今どの時代を学んでいるかという位置づけがきちんと出ていて、歴史というのは長いですから、今学んでいるところの立ち位置を、明確にしていくことが大切なので、それが出ているという点がよかったと思います。

教育出版です。

これは歴史の学び方、捉え方が充実していると感じました。教育出版は、現在学んでいる時代の相対的な位置関係が、多少は出ているんですけども、分かりづらいということがあって、東京書籍のように、各ページに出ているわけではないのです。その辺工夫されるといいと思います。

帝国書院です。

各章の初めに、「タイムトラベル」という見開きのページがあるのですが、漫画で描いてあるのです。その時代の雰囲気伝わってきて、工夫されていると感じました。

コラムではより深い学びができるように整理されているという点が特徴だと思います。

次の山川出版社は、先ほど申し上げた教科書の使い方についての説明が分かりにくい。特にどういうことを学んでいくかということが見えづらいので、もう少し工夫していくといいと思います。

この教科書だけは、ほかの教科書と違って文体が「である・だ調」なのです。多分、高校の教科書を一生懸命作られていて、それを中学校に下ろしてきたと思います。文体を工夫して、ほかの者は「です・ます調」なので、工夫されるといいと感じました。

日本文教出版です。

この者も、小口で、どの時代を学んでいくかということが、分かりやすくなっています。それから、浮世絵の見開きがあるのですが、使い方が少し分かりにくかった。

最後に、歴史との対話を未来に生かすというまとめがあります。これはその先の深い学びにつながっていいと思いました。

次に、育鵬社です。この者も「歴史のものさし」があります。それで、どこを学んでいるかの位置づけが分かるようになっている。どの時代を学んでいるかという表示は、初めはこの育鵬社がやられていたようですが、他者もそれぞれ工夫されるようになって、いいことだと思います。歴史絵巻等、俯瞰的に見る目と細かく見る目、その2つが両方対応して書かれていて、その辺は工夫されていると感じました。

それから、「歴史博物館を作ろう」についてです。自分で展示物を作るという形で、右、左、前の3面にわたって、どういうことを学んできたかという内容を子どもたちに作らせる課題があるのですが、これをやると深い学びにつながると思いました。ただ、毎回やるのは大変だと感じましたが、そういう工夫はいいと思います。

最後、学び舎は、どの時代を学んでいるかという位置づけはあるのですが、学び方があまり深く書かれていないと感じました。それから、同じページで、教科書の内容の説明が中心なので、その学びのステップにはつながりにくい。

それから、各章の初めに世界地図があり、北極から見た形で、この時代にこういうことが起きたというイベントが書かれています。工夫はされていますが、日本が中心ではなく、右上のほうにあって分かりにくい。日本を中心にして世界のことを知るという科目なので、ぜひその辺を工夫していただけるといいと感じました。

以上、全体的に判断して東京書籍がいいと思いました。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 すみません、少し余計なことを言います。

教科書の採択に直接関係ないんですけども、歴史の教科書を読んでいて一番感じた

のは、若い人たちの知識が近代や現代を学ぶというところまで、到達していない感じ、ここをもっと学ばばいいのという感想につながったんですね。

例えば、人気の韓国ドラマを見ていて、韓国と北朝鮮に分かれ、北緯38度線を境にそこが分かれるというようなことを認識していない感想を述べる若い人たちの話を聞いていると、そこ学んでいないのかな、これでちゃんと学んでくださいねというような気持ちになることが多々あります。そして、冷戦時代とか、朝鮮戦争とか、いろんなことがあるんだけど、ここに日本がどんなふうに関わっているかというようなことを知ることでも大切で、教科書というよりも授業の話になってしまうんですけども、その感想がとても強く湧いたので聞いていただこうと思いました。

武蔵野市の中学校の教科書としては、東京書籍が私もとてもいいと思っていますが、山川出版社の教科書は、大人が読むととても流れがよく分かりました。それから、冷戦時代の取扱いについては、日本文教出版の教科書もとても評価できました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

また折に触れて時間があれば申し上げたいと思うんですが、中学校の教科書は、小学校との関係とか、あるいは高校との関係で気になっていて、高校の歴史については今回の学習指導要領で、日本史、世界史が合わさった歴史総合ができましたので、そういう意味でいうと高校の教科書がどうなっていくのかというのが気になっていて、そういう意味で山川さんが今回、教科書を出されたというので注目をしていました。しかし、委員の皆さんが述べられたとおり、私も全体的には東京書籍がよいのではないかと感じました。

皆様からいただいたご意見を伺った結果、歴史については、東京書籍を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定をいたします。

以上で、歴史に関わる協議を終了いたします。

次に、「社会科 公民的分野」についての協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○小澤統括指導主事 それでは、公民についてご説明申し上げます。

公民の教科書の発行者は6者です。

社会科の目標及び公民的分野の目標は、資料2の4ページ下段に記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、東京書籍は、主体的・対話的で深い学びに優れているように思った。また「18歳のステップ」が分かりやすいように感じた。

日本文教出版については、身近な題材を扱い、学習の手法の紹介があるところがよいと思った。

単元の最後に、教育出版には「確認しよう」、帝国書院には「説明しよう」という学習活動があり、社会科の学習が得意でない子どもたちには、学習のまとめを行うためにはよいと思った。

子どもたちにとっての易しさ、難しさなどの視点はあるが、教育出版と日本文教出版がよい。学習のポイントが丁寧に押さえられている。

日本文教出版は、学習の最後のまとめのレポートが丁寧な説明なので、武蔵野市の子どもたちにとっては簡単に捉えられてしまうかもしれないが、よさはあると思うなどの意見が出され、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

質問ございませんようなので、公民についてのご意見をお願いします。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 公民の教科書を見る視点については、持続可能な社会、人権、民主主義ということをも3本の柱として読みました。人間がつくる社会とは何だということですね。揺れている問題や、デリケートな問題、テーマがあります。ここまでの歴史や道のりがあつて、答えの出しづらい問題があるわけですがけれども、教科書を使って中学校の授業の中で、その答えの出しづらい問題に向き合っていくということの見方の中に、可能性があることを学べるといいなというのが私の願いでした。

教育出版。

民主主義と民主政治について分かりやすい記述がありました。

それから、教育出版が工夫している1つのこととしては、小学校とのつながりを意識して編集されている点です。ここはとても評価できると思います。

帝国書院。

帝国書院は、授業で学んだことをレポートとして、きちっと重ねてためていくことになるわけですが、このレポート作成の手順に配慮していると感じました。

日本文教出版。

学んだ知識を使って課題を解決するコーナーがあります。ここのコーナーは、とても使いやすいのではないかと思います。

自由社。

日本人の精神、それから科学、いろんな切り口を変えて入っていくんですね。それが独特で面白いと思いました。

育鵬社。

新聞の特に社説などを使って読み比べがされています。中学校のときから、発行者が違う新聞を読むという視点、それは本当にいろいろな、多角的な視点を養っていくという意識につながるとあって、この試みはとてもいいなと思いました。

最後に、東京書籍です。この教科書を、私は一番評価しています。

私たちは、教科書をもう読みに読んで、教科書の中で夏中過ごしているんですけども、ですから表紙だけ見て、決めているのではないんですけども、東京書籍の公民の表紙を見ると、ああ、これそうそう、これ全部ちゃんと出ているよねという気にさせられて、まず表紙を評価しました。

それから、憲法の扱い、用語の解説が丁寧です。難民の記述があること、SDGsのことがしっかり置かれていること。それから、私はSDGsと、この人間の安全保障という問題はとても深く関わってくるという視点が、一番学びやすいのは東京書籍だと思いました。

それから、「18歳のステップ」という主権者意識の向上につながるページが、はっきりと打ち出されているのも特徴です。しかも、この「18歳のステップ」は見開きになっていて、一つの授業で学び切ることができます。授業として成り立たせやすいという工夫なんだと思いますけれども、評価しています。東京書籍を推薦したいと思っています。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、井口委員、どうぞ。

○井口委員 私は、東京書籍と教育出版がいいと感じておりました。先日の協議なども通しまして、教育出版がいいという気持ちが固まっているところです。

それでは、幾つかお話をさせていただきます。

まず、東京書籍ですけれども、「保護者の方へ」という項目がありまして、この公民という分野においては、まさに現在に直結する部分もあって、家族で見る機会になるという点でもいいと感じました。また、資料がとても豊富で見やすいということ。そして、單元ごとに問いがあって、いいと思います。また、課題解決も意識されていることがわかりました。

次に、教育出版です。

教育出版も、保護者への表記もありまして、全体を通した見通しというものが持ちやすい。また、コスタリカの平和条項を取り上げているところがいいと感じたところです。

次に、帝国書院です。

目次がまず見やすい、これがとてもインパクトがあるものでした。そして、体験型のコーナーというのが書いてございまして、そこにも面白みがありました。また、どういうことを学ぶかというところも示されておまして、分かりやすさもありました。

次に、日本文教出版です。

中学3年生が学ぶ教科書ということでは幼さという表現が正しいかは分かりませんが、少し物足りない部分を感じました。また、その教科書には、使い方も、見方によっては整理されているという捉え方もできると思ったところです。

次に、自由社です。

この自由社の中に、ロボットスーツの写真があったわけなんですけれども、そのロボットスーツ自体の写真の画素や掲載の仕方は、もう少し何か工夫されたほうがいいと感じたところです。また、余白が多く感じられた。表現の易しさが目立ったことや、グラフなどはもう少し多いほうがいいと感じたところです。

次に、育鵬社です。

まずは、この目次がとても丁寧です。そして、資料集もきちんとございまして、他者



もありますけれども、SDGsについても記載があるというところと、また話合いのきっかけをつくる情報が、ページのその下の部分にありまして、いいというふうな思いました。

以上を通しまして、私の中では東京書籍がいいと思いました。

○竹内教育長 ありがとうございます。

井口委員は、最終的には東京書籍がよいということによろしいですね。

○井口委員 はい。

○竹内教育長 それでは、ほかにはございませんか。

委員の意見を伺った結果、お諮りしたいと思います。

公民につきましては、武蔵野市で採択する教科書としては、東京書籍を候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定をしたいと思います。

以上で、公民に関わる協議を終了いたします。

次に、地図について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、地図についてご説明申し上げます。

地図の教科用図書の発行者は2者です。

「地図」は「社会」の中で活用する教科用図書ですので、地図としてだけの目標を示されておられません。資料2、5ページ中段に配慮事項等をまとめておりますのでご確認ください。

次に、採択協議会の協議では、帝国書院は、資料も多く掲載され、資料を見て、興味を持って地図を見て、そこから教科書の学習に発展できるのではないかと。

東京書籍は、様々な情報を盛り込んであり、興味深い資料ではあるが、細かい字で情報量が多過ぎると感じたなどの意見が出され、帝国書院がよいのではないのかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、帝国書院を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問ございましたらお願いいたします。

質問ございませんようですので、地図についてのご意見をお願いいたします。

はい、清水委員、どうぞ。

○清水委員 2者なので、比較しながらいきたいと思うんですけども、教科書のサイズが違うんですね。東京書籍は、他の教科書と同じサイズで、帝国書院は縦に長いんですよ。大ききだけいったら東京書籍のほうがいいんですけども、それぞれ中身を見てみるときに、帝国書院はこの大きさを生かした形になっているんですね。

それぞれのよさを申し上げると、まず東京書籍はSDGsの説明が非常に丁寧で、これへの理解を深める記述がたくさんあります。これはとてもいいと思いました。そして、等高線の色にメリハリがないんですけども、火山や地震の地図はとても見やすくなっています。

これに対して帝国書院ですけども、世界の気候は大きくて大変見やすくなっています。造山帯と地震の地図は分かりにくいかなと、東京書籍と比べると思います。

ただ、この2冊を比較したときに、地図の色合いが大分違います。そして、文字の大きさとか、地図の中の文字の混み具合が違うんですね。世界地図も、日本地図も比較したときに、やはり見やすさというところでいくと、東京書籍よりも帝国書院のほうが見やすいなと思います。

地図の目的というのは、地図を見る、見やすく理解するということなので、帝国書院のほうがいいかなと思いました。

それから、特に海外の地図なんですけれども、どこを切り取るかということで、地図の見え方って変わってくるんです。特にヨーロッパでいうと、帝国書院のほうが切り取り方がうまい。ヨーロッパを学んでいくときに、知りたい国を見やすく示しているということですね。

それから、地図だとどうしても見開きの真ん中がくぼんじゃうんですけども、そのくぼんだところにきている国というのは見づらいわけですね。ですから、そういったところの配慮というのが、帝国書院はよくなされているかなと思いました。

特に、東京書籍はアフリカが小さくて見づらいんですね。ほかの国はまあまあなんですけれども、アフリカが見づらくなっているというのは特に感じました。全体を通して見たときに、地図としての機能は帝国書院のほうが上かなと思いました。

そのような理由で、帝国書院を武蔵野市の地図に推薦いたします。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 本当に迷いました。どちらもよくできています。

東京書籍は、SDGsの扱いがしっかりしています。地図上でのSDGsの視点、考え方がよいと思いました。それから、色合いですけれども、もしかしたらこちらの東京書籍の、簡単に言うとあっさりした感じのほうが見やすい生徒もいるのかもしれないなと思いつつ、そこはちょっと複雑です。

帝国書院、安定感がありますね。それから、一番大事で、これは外せないと思うところ、今、清水委員も言われましたけれども、等高線の扱いです。これがしっかりしていて、一目でどういうことになっているかが分かります。目に飛び込んできて、土地をイメージすることができると思いました。

私は、領土問題については地図帳では触れずに、地理の教科書、歴史の教科書で学ぶというのが、いいんじゃないかなというふうに思っていますが、帝国書院にはその記述があります。その領土について、日本固有の領土ですがという記述があります。東京書籍にはないんです。でも、そのことはやはり触れずにいられるわけではないので、そんなに私が地理で、そこは触れなくてもいいのではないかなというようなことは、問題ないのかもしれませんが。ですから、本当に迷いに迷って帝国書院を推薦することにしました。

私の決め手は、やはり等高線だったと思います。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、清水委員、どうぞ。

○清水委員 帝国書院の地図、海外の地図に日本のスケールが載っているんですね。これは実は中学校の生徒にはすごく、日本の国と海外の国の大きさを比較する上で便利だなと思います。これが載っているというのが、帝国書院のよさの1つであると思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 先ほど山本委員もおっしゃっていましたが、帝国書院の地図は全てのページに陸の高さと、それから海の深さ、その色分けが全部載っているんですね。初めのほうに1か所でまとめて書かれるよりも、そのページ、そのページで学んでいくわけですから、それがきちんと書かれている。それから、等高線もよく見るとしっかり書かれているんですね。そういう点で、帝国書院の地図はいいと感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかによろしいでしょうか。

皆様のご意見を伺った結果、お諮りしたいと思います。

地図につきましては、帝国書院を武蔵野市で採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定したいと思います。

以上で、地図に関わる協議を終了いたします。

次に、数学について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○小澤統括指導主事 それでは、数学についてご説明申し上げます。

数学の教科書の発行者は7者です。

教科の目標は、資料2、5ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、説明が多いと見にくく、数学が苦手という意識を生徒が持ってしまう。東京書籍は、例題や考え方などが簡潔にまとめられており、適切な量であるとする。

数研出版や学校図書は、簡潔に必要な最低限のことがまとめられており、よいと思う。

東京書籍は、生徒の興味・関心を引き出すところで、日常生活に関わる課題が多く、身近に感じやすいというところが大切にされていると感じる。

学校図書は、イラストが多く、興味・関心を引き出す工夫があるところがよいなどの意見が出され、東京書籍、学校図書がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いいたします。

質問はございませんので、数学についてのご意見をお願いします。

はい、渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 数学は、小学校からの算数とそのつながり、それからその先、高校へ向けて  
どういうことを学んでいくか、そのあたりが非常に重要で、積み重ねていく科目です。  
その中に興味を持つような、そういう内容が入っていると非常にいいと感じました。全  
体的にはそういうことなのですが、1者ずつお話ししていきたいと思います。

東京書籍は、「大切にしたい数学の学び方」という項目があり、使いやすくなっている。  
それから各者、ほかの教科書もそうですけども、2次元バーコードが大抵ついて  
います。ところが、この東京書籍は、初めにどういうところを調べるのかという一覧表  
になっていて、そうすると後で参照しやすいということがあります。ということで、非  
常に工夫されていると思いました。

最後に、「深い学びを振り返ろう」というところもありまして、数学の自由研究など、  
発展的な内容も充実していると感じました。最後に1年間のまとめがある。その先は、  
2年生、3年生に、続くということです。初めのところに、段階としてこれまでの学び、  
今学んだこと、その先という構成が示されていると、非常に使いやすいと感じました。

「深い学びを振り返ろう」という題名は、分かりやすいです。

ただ、ほかの教科書は、「この教科書の使い方」という表現になっているけれども。  
東京書籍だけ、「この本の使い方」と書いてあるので、最終版では直してほしい。教科  
書であって、本とは違うので、ぜひぜひ工夫していただきたいと感じました。

次に、大日本図書です。この者は問題発見のプロセスが分かりやすく載っていて、更  
にノートの作り方が、章に入る前にあって工夫されていると思いました。巻末に、「も  
っと数学の世界へ」というページがありますが、そこに発展的な内容が記述されて、整  
理されていました。例えば2年生の167ページに、パズルの作り手の話が載っていて、  
これは非常に子どもたちに興味を湧かせる部分だと思うのです。私も小学校に入る前に  
パズルの本を見て、そういう世界があるんだということで、結構、算数、数学に興味を  
持って、今に至るのですけれども、やはりそういうきっかけをつくるという点で、いい  
と思いました。

学校図書です。

数学の学び方で自分を見直す、まとめる、生かすというところがよくできていると思いました。「今の自分を知ろう」というところには、数学の世界でもSDGsの話題が載っています。フェアトレードの例で載っているのですが、普通に買った場合と、フェアトレードで買った場合、どういう違いがあるのかということ、数学の世界の中で考えさせるという点で、工夫されていると思いました。

次は、教育出版です。「教科書の使い方」というのが左ページにあって、記号の説明が中心になっている。その次のページに、学習するときの学び方、大切さが載っているのですが、学びのステップという観点からすると、もう少し工夫されるといいと思います。

「学びのマップ」が、巻末にあるのですが、これはよくできていて、今年度、何を学んだのかということが明確にされていて、分かりやすく感じました。

また、プラスアルファとして、「数学のひろば」というところに幾つか例が載っているのですが、列車のダイヤを作った人の話があって、特に中央線についての車内、吉祥寺の駅は具体的には載ってないですが、中央線のダイヤを例にして、作った方のお話が載っているということで、子どもたちに興味を持っていただけると感じました。

啓林館です。

「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」というのが2つで、別冊を1冊にした形で、工夫はされているのですが、「自分から学ぼう編」というのは、一番後ろから見る形で横書きなのです。なので、前からと、後ろからの開き方は違うので、なぜこういうふうにしたのでしょうか。工夫していただけるといいと思います。

数研出版です。

学習のステップが見にくいと、感じました。手順をきちんと進めていって、数学の考え方、学び方が明確に分かるほうがいいので、残念だと思います。

それから、別冊は全体的には減ってきましたが、この数研出版の場合、別冊があって場所を取ってしまいそうなので、本の中に挟み込むという形のも多いんですけども、挟み込んでも大きいのではみ出してしまう。教科書の本文に入れたほうが使いやすいと思います。

日本文教出版です。

「この本の使い方」というのは、マークの説明が中心になっていて、一方、授業の進め方のほうは分かりやすく載っています。「数学マイトライ」というページがあって、

練習問題のような形で巻末に資料があるということで、使いやすさはあると思いました。

全体的にお話すると、アイコンがたくさん出てくる教科書と、それからとても整理されて出てくる教科書があるのですが、多いところを数えてみると、30種類ぐらい出ている教科書もあります。少ないところは5種類ぐらい。随分違いますがアイコンのうまい使い方をこれから工夫していくと、教科書を使うときに便利になると思いました。あまりにも多過ぎると、何が何だか分かりにくいということもありますので、今後、工夫していただきたいと思います。ということで、全体的に見て、東京書籍がいいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、井口委員、どうぞ。

○井口委員 数学という分野は、渡邊委員と同じで、積み上げが顕著に出る教科書であると感じているところです。また、つまずいてしまうことによって、その先に、進みづらくなるというところを、一番、注意しながら見させていただいています。興味を引き出す工夫がいろいろな視点から表現されていることが、大切だと思っているところです。

では、各者お話をしていきます。

東京書籍は、1年生の教科書、厚紙、4枚を使っています、立体を組み立てる。2年生は1枚、確率のデータを書いていくとか、3年生はカメラの模型、カメラアングルというとても斬新な工夫を感じました。さらに保護者向けのページというのがありまして、子どもが保護者に何で数学を学ぶのであろうかという問いをしたときに、教科書に説明があることでとても役立つと思います。また、索引に図が入っていて、とても見やすく、分かりやすいと感じました。

次に、大日本図書です。

ページの各章ごとのインデックス、色分けが、とても薄い表示になっているので、もう少し濃くはっきりとさせていただくと、より見やすくなると思いました。また、厚紙も、活用されているだろうと感じております。

次に、学校図書です。

先ほどと同じく、教科書を見たときの章ごとのインデックスの表記がとても分かりやすい。1年生の教科書は、めり張りがあると感じました。中には、数ページにわたりま

して丁寧に説明しております、ここで苦手と感じた生徒にも分かりやすくしようという、そんなような意図が伝わってきております。この厚紙も充実しております、保護者向けのページがあるという点もよいと思います。

教育出版も、同じくこの厚紙も活用されていまして、渡邊委員も話されていたように鉄道会社の輸送計画の話を通して日常生活と数学の考え方につながりが感じられ、いいと思います。

次は、啓林館ですけれども、これは裏表紙側から、「自分で学ぼう」というのが始まっておりまして、例えば先生が「何ページを開いてね」といったときに、戸惑ってしまうことがないのだろうかと思いました。保護者向けに書いたページもありました。

次に、数研出版です。

これは別冊になっているところが、1つポイントなのかなと思いました。数学というのは、資料集とは違って、こっちの教科書、こっちの資料集、ドリルみたいなもの、あちらこちらを見るというよりは、一つの教科書の中で流れを進めていくほうがいいと感じております。また、いろいろな視点から見て学んでいこうという点では、厚紙が少し少なめに感じたところです。

日本文教出版です。

先ほどから何度か申し上げますけれども、この章のページというものがきちっと分けられている点がいいと思います。また、対話ノートからは、切り取って友達と共有しようという工夫も見ることができました。

そんなことから、私の中でも同じく東京書籍がいいと感じたところです。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 東京書籍は、最後まで学校図書とみんなで競りましたよね。学校図書の最初のところに、ちっちゃい木の坊や、頭の上に芽吹いているような子が出てくるんですけれども、とてもかわいくて活躍しているのに、あなたは誰なの、最後まで分からないのです。この子は、途中でティーブレイクとかいって、面白いトランプの話とかもしてくれたりして、私のように数学となかなかいい関係をつくれなかった者にとっては、とても大事な存在だったのです。こういう存在をつくったのなら、この人は



誰だということを書いていただきたかったのです。そして、この人が時々、「あんたちよっと迷子になりかけているでしょう。何ページのところに戻ってみるといいよ」なんて言ってくれたりすると、とても理解が進むのにと思いました。井口委員も、苦手意識を持っている人の学校図書の評価を言ってくださったけれども、そういうことも大事なんじゃないかなと思っています。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

私も皆様の意見を伺っていて、1つだけお話ししたいと思います。

ほかの教科もそうなのですが、教科書採択について私が視点として持っていたのは2つです。生徒の学びへの関心と意欲を、この教科書がどう引き出せるのか、より引き出せる教科書を選びたいということと、現場の先生が授業で使いやすい教科書にしたいと。その2つの視点で教科書を、ほかの教科も含めて見ていきました。

お話を伺っていて、東京書籍の数学なのですが、2つお話ししたいと思います。

1年生の最初の扉のところ、ほかの教科書は、数学になるけれども、心配ありませんよとか、大丈夫ですよというような書き方が多かったのですが、東京書籍は「数学の世界へようこそ」ということで、非常にわくわくさせるような記述の仕方をしています。

それから、それぞれの章の最初に、生活に根差したような数学への関心を引き立てる問いを立てているんですね。例えば2年生の3章のところ、一次関数について学ぶ章なのですが、たくさんのお湯を沸かす場合に、中火と強火どっちで沸かしたほうが経済的なのかとか、いろんな生活に根差した問いを最初に立てて、数学の学ぶ意義とか、興味関心を引き出すような工夫というふうに捉えましたが、そういった特徴があると感じております。

皆様からの意見を伺った結果、お諮りしたいと思います。

数学につきましては、東京書籍を採択する教科書の候補としたいと思います、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、数学に関わる協議を終了いたします。

次に、理科についての協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、理科についてご説明申し上げます。

理科の教科書の発行者は5者です。

教科の目標については、資料2の4ページ中段に記載のとおりです。

採択協議会の協議では、東京書籍は、表紙を見ると生徒たちが、「これは何だろうか」「これはなぜなのだろうか」と、3学年とも疑問を持って学習に取り組めるのではないかと感じた。

教育出版は、「学習前の私」と「学習後の私」というところで、自分の学びを記録して意識づけるところがよい。しかし、若干、教科書の重量があるということが難点と感じた。

東京書籍は、見やすく感じた。理科が身近に感じるような、関心がもてる資料が多いので、生徒に興味をもたせることができるなどの意見が出され、東京書籍と教育出版がよいのではないのかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、教育出版を候補の案とするということで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問ございましたらお願いいたします。

特に質問ございませんので、理科についてのご意見をお願いします。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 最初に、全体的なことですけれども、他教科は表紙や背表紙に必ず教科名が出ているんですね。理科だけ出てない教科書があるんですよ。というのは、「理科」って書いてある教科書もあるし、「科学」って書いてある教科書もあるし、「サイエンス」って書いてある教科書もあるんですね。でも、理科という教科を学んでいく、そのときに使う教科書なので、やはり「理科」という教科名をぜひ入れていただきたい。このことは、私は切実に思いました。

各者、見ていくと、東京書籍だけ背が高くなっています。見てみると、文字数、情報量、これは東京書籍が一番多いなと思いました。参考書的にも活用できるなと思いました。

それから、学習内容の整理、「確かめと応用」というところでは、本来、生徒が自分でまとめるべきだとは思いますが、見方を変えるとですね、これが出ているというのは親切なのかなということも思いました。

それから、紙面は大きいんですけども、違うポイントの文字がいっぱい出ていて、ごちゃごちゃ感がある。もう少し整理されると、見やすくなっていいのかなと思います。

それから、これほかの者にも言えるんですけども、生徒の漫画というか、人物が出てきて、生徒に考えさせたいなというようなことを吹き出しで言っているんですが、生徒が考えたいなとか、考えようという意欲を阻害している形になってしまっている、そういう吹き出しが多いんですね。東京書籍も、そういう傾向があるかなと思いました。実験の進め方が詳しく出ていて、実験の前に課題、調べ方を考えようって十分考えて予想する。こういうことは、主体的・対話的な学びにつながるのととてもよいと思います。

大日本図書です。こちらも生徒の絵が吹き出しで、かなり詳しく書かれています。実際に生徒に考えさせたいなというところまで出てしまっているのが、残念だなと思いました。巻末の探求の進め方は、学び方を確認する上では利用価値が高いなと思います。特にICTの活用にもたくさん触れていて、これはいいなと思いました。

それから、学校図書です。どうやって理科を学ぶのというところで、狙いはいいんですけども、説明を読んでいくと、文章が洗練されていないなという気がしました。でも、探求の進め方とかですね、授業を受けるコツとか、伝えるとか伝わる、伝えるコツとか、これは非常によく分かって、内容もよくて、これは生徒がこれから理科を初めていくときに、とても参考になるなと思います。「学びを日常に生かしたら」というのは、非常に面白いアプローチだなと思いました。

教育出版です。まず、生徒のキャラクターが出ているんですけども、うるさくないのです。こういう形もあるなと思いました。ただ、内容を見ると、その生徒たちが核心をついているのですが、授業を進めていく上でそんなにうるささは感じませんでした。それから、要点と重要用語の整理というのは、まとめとしてとてもいいなと思います。答えを確認しながらできます。基本問題も考えやすくいいなと思いました。

教育出版のいいところは、単元導入が非常にダイナミックです。写真が大きくていいなと思いました。見通しを持って実験、観察ができると。科学的に探求する力を育てるという視点でいうと、例えば絵や写真のサポートというのは実はとても大切なのですが、これは教育出版が一步、先んじていると思いました。

啓林館です。1年生の4ページに探求の過程というのがあります。それから、5、6ページに、この教科書の使い方というのがありますが、ここで書かれている流れが微妙に違うんですね。同じ教科書なので、同じ調子で書かれていたほうがいいのかなと思

います。実験については、目的、方法、結果、考察という流れで詳しく書かれています。生徒の考えたいとか、考えるというところを大事にするとすれば、若干このところが書かれ過ぎているのかなと、そういう展開になりにくいのかなという気がしました。

全体を通して、教科名を入れてほしいという話を最初にしましたけれども、こういっただけでできているということ、科学的に探求する力を育てていくということで、私は教育出版が武蔵野市の生徒のためには一番いいかなと思いました。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 先ほど清水委員がおっしゃっていた科学とかサイエンスとか理科とか、いろいろな題名がついていて、テキストを探すのに大変苦労しました。科学と理科は分野、範囲が違うのです。科学、サイエンスのほうが広いのです。ですから、しっかりとテキストの題名をつけていただきたいということについては、同感です。

東京書籍です。

先ほど清水委員がおっしゃいましたけれども、横幅はB5で縦のほうがA4の大きさなので他者に比べてたてに飛び出しているわけですが、それをうまく紙面配置に使っていると感じました。学びの段階は非常に丁寧に書かれていて、参照する情報のコードの一覧表が初めにあって、これもいいと思いました。ただ、関連するページにも一緒に載せてほしいと思いました。

巻末資料に「学びを広げよう」という内容があって、理科室の決まりとか約束事等が書かれているわけですがけれども、特に安全面、理科の実験等やる上では大切なことなので、こういうのは初めのほうに出していただいて、理科を学ぶ上での注意点は初めのほうにあったほうがいいと思います。その辺の工夫をされて、もっといい教科書になりそうだと思います。

大日本図書は、逆にB5の大きさです。奥行きと縦の方向が小さくて、全体的に小ぢんまりした感じがしました。紙面を大きく使ったほうが分かりやすい、理解しやすいということがありますので、ぜひ工夫していただきたいと思います。2年生で、周期律表が初めのほうのページに見開きで出てます。最後に出ている者もありますが、周期律表は分かりやすく初めのほうに出していただけるといいと思いました。

学校図書です。教科書の使い方のページは、学習のステップと併せて書くということ

で捉えやすくなっていて、学習のステップと使い方というのが一緒に書かれているのはいいと思います。全体の4分の1というページで、元素記号の書き方等を掲載していますが、周期律表との関係が見にくくて周期律表が大きく出ていない唯一の教科書だったのです。これは、重要で、新しく日本でつけた名称の元素もあるので、それを大きく出してほしかったと思いました。

教育出版です。

探究の進め方は、一番初めに載っていますが、開くと教科書の横に出るわけです。そうすると、どのように学びのステップを進めていくかという内容が、常に見られるようになっていく。この辺が工夫されています。どこの單元においても、探究というのはやっていかなければならないわけですから、進んでいるところがよく分かります。そういう点で、工夫がされていると思いました。

ただ、このステップの中で、観察・実験の後ろに考察があって、その次に結論というそういう手順になっているのですが、通常は観察・実験の次に結論があって、その次に考察とあるのがよくあるパターンです。だけど、考えて、それで結論を出すという順番になっている。その理由は分かるんですけども、そういう考察でいいのかなと思いつつながら、気になったところでありました。全体的に見やすいページ構成になっていて、非常に使いやすい教科書だと感じました。

啓林館です。先ほど清水委員が、分かりにくい部分があったということをおっしゃっていましたが、教科書の使い方とステップとが、教科書のページの下に書いてあって対応していること、それから、小さめで見にくいというのはありますが、その下に出てくるアイコンの内容が書かれていて、見開きの2ページの中に全ての情報が入っています。教科書でこのように学んでいくということが、分かりやすく示されていると思いました。

ということで、全体的に見て教育出版のテキストを採用するのがいいと感じました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

私も今いただいた意見を踏まえて、一言だけ申し述べたいと思います。

理科は教科書の判型にバラエティーがありまして、A4、縦長とありますが、それ以

外の点について言っておきたいと思うんですね。東京書籍ですが、表紙と裏表紙の写真のインパクトがすごいなと思っていて、そういう意味でさっきもお話ししましたがけれども、その学びへの興味・関心を高めるという意味では効果的かなと思う点と、それから東京書籍だけが関連の図書の紹介をしているんですね。武蔵野市は、読書活動を大事にしていますし、学びのその先への意欲を高めるという意味でも、図書の紹介は、これもありじゃないかなと思います。一方で、最初に申し上げた判型なんですけど、調査委員会の報告も見てみたんですけども、やはり縦長の細いものよりもA B型ですね、横長のほうが使いやすい、それから見やすいというのが意見であるようです。それらを踏まえると、私もそういう意味では教育出版が使いやすい、分かりやすいかなと最終的にはそのように感じました。

それでは、お諮りしたいと思います。

皆様から意見を伺った結果、理科につきましては、教育出版を採択する教科書の候補としたいと思いますけど、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、理科に関わる協議を終了いたします。

次に、「音楽 一般」についての協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、「音楽 一般」についてご説明申し上げます。

「音楽 一般」の教科書の発行者は2者です。

教科の目標については、資料2の6ページに記載のとおりです。

次に、採択協議会の協議では、教育芸術社は、見やすく、生徒が使いやすいのではないかと考える。

教育芸術社は、開いたときに安定しているのでよい。また、楽譜を見ながら歌ったり、楽器を演奏したりするときなどは、楽譜の符号見ることになるが、すっきりしていて見やすくてよいと思うなどの意見が出され、教育芸術社がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から2者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、教育芸術社を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

特に質問がございませんので、「音楽 一般」についてのご意見をお伺いします。

はい、井口委員、どうぞ。

○井口委員 音楽、この教科は、家庭の環境として、いつも音楽に触れていることができるご家庭と、はたまたそうではないという家庭もあるのかなというふうに感じているところ。その中からも、興味が湧く教科書、音楽が好きになるような教科書がよりいいなという観点から見ていたところです。

まず、教育出版は、目次の部分で「歌う」「作る」「聞く」というところで、色分けがとっても分かりやすくいいなというふうに感じたところです。また、写真や絵がとっても多くて、その情景、曲の情景などが思い浮かびやすいというところ。また、市民意見もございましたけれども、音楽というものを聞いて終わらすということから、一歩進みまして、教科書自体が随分と変わってきているなという印象を持ったという意見も寄せられているというところがございました。

次に、教育芸術社です。この目次についてが、すっきりとしている点が、学習内容のつながるという構成がいいなというふうに感じたところです。保護者に対して、その教科書に込めた思いというものが記載されておりまして、親、保護者にとってもその点に触れられていいのかな。そして、国歌につきましては、国際的な儀礼や式典で歌うということが、記述がございまして、中学生にとっても具体的に歌うというシーンをイメージしやすいというふうにも感じ取ることができています。写真や絵につきましては、音楽が社会に結びついてきた文化としてのそういった感情を届けることができるというようなつくりになっているというような話も出てきたところです。市民からの意見には、写真やレイアウトがいいというような記載もありまして、話し合いという部分での工夫を感じることができて、先ほどの委員会からの報告にもありましたけれども、譜面台に置きやすいというのも、とてもいい点なのかなということで、見やすさ重視というところからも、教育芸術社がいいなというふうに感じました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 教育出版。楽譜のところに写真があるんですけども、これが少し楽譜を邪魔していることになるような気がしました。ヴィヴァルディの四季が取り上げられていて、音楽とともに詩を楽しむ仕掛けがしてあるところはとてもいいなと思いました。それから、「CMソングを作ろう」という、これはコンピュータをうまく使って、現代風で面白いと感じました。1つ、日本の音楽と西洋の音楽の歩みのところで、音楽家と出来事の年表が2つに分かれていて、見にくさを感じるという意見が出ました。

それから、教育芸術社。楽譜がシンプルで見やすいと思います。それから、年表がとてもよくできていました。1年生の教科書の中に、「マイボイス」の取組がありました。これはとても新鮮で、合唱を大切に、みんながよく歌っている武蔵野市の生徒に改めて学んでもらって、自分の声のことをちゃんと知る、認識して歌声を響かせるということにつながっていくと、とてもいいなと思って読んでいました。中学生にとって、シンプルで、かつ、基本的なことをしっかり押さえながら学びを進めるという意味で、教育芸術社の教科書がよいのではないかと考えています。

1つ言うのを忘れました。教育芸術社の教科書の中には、SDGsとのつながりもしっかりと書かれています。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 今ありましたけれども、教育芸術社の「マイボイス」というのは、詳しく丁寧に書かれていて非常にいいなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかによろしいでしょうか。

それでは、お諮りしたいと思います。

今いただいた委員の皆様のご意見を伺った結果、「音楽 一般」につきましては、教育芸術社を採択する教科書の候補としたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、「音楽 一般」に関わる協議を終了いたします。

次に、「音楽 器楽合奏」についての協議を行います。



説明をお願いします。

○村松指導課長 それでは、「音楽 器楽合奏」についてご説明申し上げます。

「音楽 器楽合奏」の教科書は2者です。

教科の目標については、資料2の6ページに記載のとおりでございます。

採択協議会の協議では、中学校では、アルトリコーダーを使うことが多い。リコーダーの運指表が使いやすい教育芸術社がよいと思う。

音楽は、楽器を弾きながら教科書を見るなど、ほかの教科とは少し違うところがある。実際に教科書を机の上に置いたときに、見開きにして置きやすい教育芸術社がよいなどの意見が出され、教育芸術社がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様からこの2者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、教育芸術社を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

特に質問がないようですので、「音楽 器楽合奏」についてのご意見をお願いいたします。

はい、井口委員、どうぞ。

○井口委員 器楽となりますと、家庭の環境によっては触れる機会、そもそもその楽器というものになじみがあるかどうかで、大きく変わってくるので、楽器の紹介から触れていくというところが、大事であるというふうに思ったところです。

では、まず教育出版です。

教育出版は、リコーダーから入っているんですけども、太鼓の次に7種の打楽器が小項目で紹介されています。リコーダーの手入れの方法は、とても大切だと思うんです。だからこそその説明が、もう一步、踏み込んでいただけたらいいのかなというふうに思いました。

さらに、ギターを紹介ですけども、リコーダーは各生徒が持ち物として持っているんですけども、ギターは、授業でないとなかなか触れる機会がない生徒もいるというところで、もっと踏み込んだ基本的な部分の説明が欲しいところでした。

次に、教育芸術社です。

まず、表紙に、郷土の楽器や教科書に込めた思いなどが、ピアノを通して書かれてい

るところがとても印象的でした。先ほどと比較をした中で、打楽器については、太鼓のほかに打楽器で8種類、紹介されており、この楽器を使用する場面まで表記をされています。その楽器が活躍している、使用されている状況が、とても分かりやすいと思いました。

また、リコーダーの手入れの仕方は、とても分かりやすく書いてありました。ギターについては、チューナーの説明が分かりやすいと感じたところです。また、2次元バーコードにつきましては、人物に焦点を当てているというところから、その作曲者、演奏者のことを、もっと知りたいときにも対応でき、活用できるのかなと感じました。

このようなことから、教育芸術社がいいと感じております。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 どちらもとてもよくできていて、魅力的な教科書だと思います。

ただし、「音楽 一般」と「音楽 器楽合奏」の教科書は、そろった同じ者のもので学ぶと、学びやすいのではないかと考えています。ということは教育芸術社ということになるわけですが、内容についても今、井口委員が詳しく言ってくくださったとおり、身近であるリコーダーについての練習や、その扱いが詳しく記されていること。それから、演奏の中にアンサンブルに挑戦するというのがあるんですけども、笑点のテーマというのが入っているんですね。中学生がみんな「笑点のテーマ」を演奏しているところを想像すると、何か楽しそうに聞いてみたいなと思いました。「笑点のテーマ」だけではなくて、曲選びも中学生の気持ちをぐっと持ち上げるような、励ますようなものが選ばれていると思いました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

それでは、お諮りしたいと思います。

今いただいたご意見を伺った結果、「音楽 器楽合奏」につきましては、教育芸術社を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、「音楽 器楽合奏」に関わる協議を終了いたします。

次に、美術について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○小澤統括指導主事 それでは、美術についてご説明申し上げます。

美術の教科書は3者です。

教科の目標については、資料2の6ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、光村図書出版は、ページ数が少ないということだが、内容は精選されており、あまり授業時間がないということ踏まえるとコンパクトにまとめられていることがよい。また、生徒が、実際に紙質を体験できることは、美術の奥深さを知ることにつながるのではないかと考える。

光村図書出版は、紙質の工夫がよい。2冊に教科書が分かれていることも生徒にとって使いやすいと考える。

日本文教出版は、作品の点数が多く、様々な観点からのデザインも多く掲載されているので、生徒にとっては刺激されることが多いと思う。授業では、全ての作品について網羅することは難しいと考えるが、資料的な意味で生徒に見せることで、世界が広がっていくと楽しいだろうと思うなどの意見が出され、光村図書出版と日本文教出版が、よいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、日本文教出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

質問はないようですので、美術についてのご意見をお願いいたします。

はい、井口委員、どうぞ。

○井口委員 美術というこの分野ですけれども、描く、鑑賞する、造るという部分、これも生徒たちにとって得手不得手が、表れやすい教科というふうに思っております。そんなことから、どの生徒も取り組みやすいというものがいいというふうな視点で見ているところです。

では、まず開隆堂出版です。まず、導入の部分で、形と色彩で自分の世界を創造する

ものであることなどを表しておりました、いいと思っているところです。そして、この折り込みの部分がうまく活用されているところが、一番、特徴的であると思ったところです。そして、2次元バーコードでは、そのまま読み込みますと外国のホームページにアクセスするものもあって、中学生が効果的に活用できるのか少し疑問が残ったところです。

次に、光村図書出版です。

保護者へのメッセージがあり、導入の部分で、美術について丁寧な説明があると思いました。また、風神雷神の折り込みの部分が、ぱっと大きくて圧倒されると感じたところです。また、こちらの2次元バーコードは、アクセスすることでさらにたくさんの作品を見ることが、大きな特徴です。また、トレーシングペーパーなどを使って、工夫されていると感じたところです。

次に、日本文教出版です。

この日本文教出版だけは、唯一3冊になっているところに違いがあります。導入の部分で生徒たちになじみのあるアニメや、有名なシンガーソングライターを取り扱っているというところが、とても身近に感じやすいです。また、風神雷神の屏風については、そもそも屏風自体、折って飾ってあるわけですので、実際に折ってみるという工夫がある中で、実物への思いをはせることができると感じました。

こんなことから、美術への取り組みやすさという工夫が一番多く感じた日本文教出版がいいと感じました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 美術の教科書は、描きたい、作りたい、鑑賞したい、この気持ちを引き出すという観点と、ごく身近に美術はあり、生き方、暮らし方の美学を自分でつくっていくものであるという考え方につながっていくことが大事だと思い、その着眼点で見させていただきました。

開隆堂出版。1年生は、意外と平たんにつくられているんですけども、2・3年生になると鑑賞の学びが深まっているように感じました。鑑賞の学びで、桃山時代の後期の琳派について紹介されています。本阿弥光悦と俵屋宗達に始まったあの琳派ですけれ

ども、この影響を今では海外のほうが強く影響を受けているのではないかと思うぐらいで、核になる大事な世界観がここには展開しているんだと思います。この世界を中学のうちに触れてほしいって常々思っていたところ、この扱いがとても心に残りました。そこはとても評価しています。

光村図書出版。選ばれた表紙の挿画が、見事だと思います。描きたい、作りたい、鑑賞したいということを引き出す工夫が最もされている教科書だったと思います。何か美術的なセンス、感覚が一番、私には身近に感じられ、特に情報を伝えるピクトグラムのが最近とても話題になっていますけれども、こういうことの取り合いがないなと思っています。

日本文教出版。

墨と水の世界を取り扱っています。墨一色の表現というのは、本当は今の子どもたちにとってとても難しいものだと思うんですけども、武蔵野市では小学校のときから水墨画に取り組んでいて、そのことを大事にしてきたので、この発想力をますますここで深めるということが期待できると思って、うれしくなりました。2・3年生の上巻では、近代美術を扱っていて、そこまで培ってきたイメージを、なかなか難しい、この近代美術のイメージをしっかり自分のものにしていく手がかりがつかめると思います。

それから、私が一番評価したのは、この2・3年生の下巻のフードコーディネーターの話です。料理の盛りつけや、味や香りのバランスなどが美術の世界の視点であるということが紹介されていて、このことが、ごく身近に美術があり、生き方・暮らし方の美学にということが具体的にイメージできる場所だと思います。

本当に迷いました。光村図書出版と日本文教出版で。ただし、やはり武蔵野市の子どもたち、生徒のことを考えると、水墨画のことにしても、この日常的な美学についても、学びを深めようということにしても、日本文教出版の教科書が今はふさわしいと思ってこちらを選ぶことにしました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、清水委員、どうぞ。

○清水委員 今お話にあった描きたい、作りたい、鑑賞したいというのはすごく大事で、これはどの3者も工夫はしているんですけども、一番、生徒の意欲を高めていく、工

夫しているのは日本文教出版だと思ったんです。

その理由は、まず写真が非常にダイナミックであって、それから作品もダイナミックであって、出ている紙面が非常にダイナミックな構成をしている。これを見ると、おおと思うんですね、生徒は。こういう工夫は、すごく大事だと思いました。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

今いただいた皆様のご意見を伺った結果、美術につきましては、日本文教出版を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、美術に関わる協議を終了いたします。

次に、保健体育についての協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○小澤統括指導主事 それでは、保健体育についてご説明申し上げます。

保健体育の教科書は4者です。

教科の目標については、資料2の6ページに記載のとおりでございます。

採択協議会の協議では、学研教育みらいが、使いやすいのではないかと思います。生徒の話合い活動が多く設定されており、深い学びにつながりやすい。

その次に、大日本図書も分かりやすい構成であると思うが、まとめの問題がないところが残念に感じたが、使いやすい教科書ではないかと思う。

大日本図書は、左のページに文章があり、右のページにはイラストや図解が掲載されており、このレイアウトは見やすいと思う。

学研教育みらいは、写真が明るく多い。子どもたちは、イラストよりも写真に興味を持つのではないか。子どもたちが学習を進める際には、新しい写真が多く、非常に参考になるのではないかと思ったなどの意見が出され、学研教育みらい、大日本図書がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、学研教育みらいを候補の案とすることで、一旦、協議が

まとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

質問ないようですので、保健についてのご意見をお願いいたします。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 これまでも教科書採択に関わってきて、年々、保健体育というのは、この深さというか、大切さが身に迫ってくるような気がしています。

今回も新しい学びが私自身ありまして、教科書の中に体育理論が先に置かれているのが望ましいということをお教えをいただいで、ああそうかという、それもそうだなという納得するところまで学びを進めることができました。武蔵野市で使う保健体育の教科書の中で、最も大切なのは多様性と心の性を扱っていることが前提になっていると考えています。LGBTや性の問題と、どのように向き合って、それを取り扱って、深い学びつなげていくことができるかということが、とっても大切だと思っています。ですから、今回だけは先に申し上げますけれども、学研教育みらいを推薦しています。

そのほかに教科書を読んでいく視点の中で、感染症と、それから薬物乱用・飲酒・喫煙の問題を特に気をつけながら比較して読ませていただきました。感染症のことは、この教科書ができているときに、コロナなんていうことは全くなかったもので、新型コロナウイルスというようなことは、一言も、どこにも出ていませんけれども、ただし感染症のことは、細菌とウイルスの違いについてよく描かれていたりして、どの教科書にもきちっとそのことが出ています。

それから、薬物乱用と飲酒と喫煙の関係について、もちろん薬物乱用ということは、本当にそこに向かわないようにということになるわけなんですけれども、でも考えなしの飲酒・喫煙は難しい問題につながっていくというようなことも、各者がしっかり向き合っていることが印象的でした。

東京書籍。東京書籍にも、性の多様性についての取扱いがあります。LGBTや性の問題を中心にお話をしていこうと思います。東京書籍にも、性の多様性についての取扱いがあります。

大日本図書。大日本図書には、「性的マイノリティー」という言葉が、資料の項目にはあるんですけれども、特にそのことについての掘り下げはないようで、その点に関しては少し弱さを感じました。

大修館書店は、性の多様性についての記述はありません。しかし、この教科書にはがん教育について取り上げられていて、中学生のときから、がんの教育に目を向けるということは、大切だなということは感心いたしました。

そして、学研教育みらいですけれども、この教科書は本当にLGBTやSOGIに触れる機会がしっかりとつくられています。LGBTというのは、私たちが認識しているように、性的少数者を意味する4つの言葉のアルファベットの頭文字を取って、LGBTで、SOGIは性的指向、性自認、好きになる性とか心の性とか、つまり全ての人の属性を表す英語の言葉のアルファベットでSOGI（ソジ）といいますね。ですから、こちらのほうは全ての人を持っている属性のことであり、全ての人の人権の尊重につながる言葉になるかと思います。そのことをしっかり捉えていること、これは武蔵野市の子どもたちにとってとても大切なことなので、大層評価しています。

このことだけでも、ほかのことにも、例えばアルコールのことに関しても、アルコールハラスメントのことが取り上げられていたり、きめ細やかだということもあるんですけども、このいろいろな意味での人権上の課題を、しっかり学びやすい形で取り扱っていることは、本当に評価して迷うことなく学研教育みらいを推したいと私は考えています。

感染症のことも、感染症が広がる中で人権上の問題が起きていくことがあるというような記述があって、多分これは道徳の授業と連動して動くことになると思いますけれども、そのことも既に書かれています。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、井口委員、どうぞ。

○井口委員 保健と体育、2つのこの分野が密接につながっているという点、それらのバランスや、来年になってしまったオリンピック・パラリンピックではありますけれども、そこに偏り過ぎていないということも、視野に入れて見ていったわけです。特にこの保健の分野では、第2次成長期である性に対しては、親との話合いの切り口に、この教科書はなり得るのではなかろうか。そのような部分からも注意して見ていったわけです。

まずは、東京書籍です。

裏表紙に、保護者に向けたメッセージが書いてありまして、言葉の基礎的な部分につ



いては、分かりやすく掲載されている点、そして2次元バーコードでも、先ほどのLGBTに加えまして、スペイン風邪の掲載があるというのが特徴的でした。また、見開きで、その学び方というのが分かりやすく説明されていました。

次に、大日本図書です。

大日本図書は、保護者向けや生徒に向けた文言が、探しにくかったと思います。スマートフォンについての取扱いがあるというのは、いいと思いました。また、目次で、見開きで1時間の学習の流れとか、学習の仕方が丁寧に書かれているわけですがけれども、その一方で、第1章に入る前、たくさんのページが割かれており、情報が多いと思いました。

次は、大修館書店です。

大修館も、保護者や生徒たちに向けた文言がありました。また、その教科書の使い方、学び方は、分かりやすいです。また、がん教育についても、詳細に記載されているところだと思います。

次に、学研教育みらいです。

まず、目次で保健体育を学ぶということとか、スポーツで世界を一つにというその言葉、そして悩んだときの相談窓口であったり、科学技術の発展を取扱っている点がいいと思いました。また、LGBTや感染症の抗体の仕組みについても取り扱っている点が特徴的でした。また、とても非常に細かいことに配慮されていて、分かりやすい紙面構成でした。個人差につきましても触れられているので、配慮されていていいと思います。市民意見でも、偏見をなくすという教育、指導にも生かせるんじゃないかという意見がございました。

以上のことから、私は学研教育みらいがふさわしいと思っております。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、お諮りしたいと思います。

今いただいた皆様のご意見を伺った結果から、保健体育につきましては、学研教育みらいを採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、保健体育に関わる協議を終了いたします。

次に、「技術家庭科 技術分野」についての協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、技術についてご説明申し上げます。

技術の教科書は3者です。

教科の目標及び技術分野の目標については、資料2の7ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、東京書籍は、情報活用能力を重視した教材や思考ツールが充実している。子どもたちの情報活用能力の育成には適している。主体的・対話的な学びの視点からも、説明する図を多く取り上げられており、子どもたちの学びを深める工夫ができるのではないかと。

東京書籍は、問題解決能力を育成する構成や配列などに工夫が見られるということから、子どもたちが写真や図からも理解しやすいと思った。

開隆堂出版と教育図書は、生物育成についての若干の不足を感じたという報告があった。

3者とも学習の流れに工夫がある。開隆堂出版は、学習の流れやガイダンスなどに工夫があると感じたなどの意見が出され、東京書籍、開隆堂出版がよいのではないのかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

質問がございませんので、技術についてのご意見を伺いたいと思います。

よろしくをお願いします。

はい、渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 3者、それぞれ工夫されていると感じましたが、最終的には東京書籍がよいと思います。

東京書籍の初めのところ、どの者でもガイダンス的な内容が載っているのですが、非

常に充実した内容になっています。1つは、技術、家庭ともに、実験的な内容がありますから、安全に対する考え方、これを明確にきちんと示すということが大切です。この者では、安全に対する見方に注意しなければならないことが、絵があつて、それでどこが悪いかを探すようになっていきます。自分で考えながら、ここはよくないなとか、そういうことが見えてくるのです。その辺は、工夫されていると感じました。

技術の見方・考え方という内容で、LEDライトを例にして、技術の最適化って何だろうというページがあります。最適化というのは、一番いいのを探すことですが、制約条件とあつて、評価尺度があつて、その2つから最適化ということが出てくる。それが明確に、漫画で示されている点が良い。技術の考え方の特徴を表していると思います。

「未来をつくる問題解決」として、問題解決のプロセスがきちんと手順化されていて、その手順が各演習等々で反映されて、その演習に関するステップにおける立ち位置が見やすく書かれている。全体的にPDCAのサイクルがきちんと回せるように工夫された教科書であると思います。

さらに、ページの一番下のところに技術の工夫や、学ぶ場合のいろいろな情報が入っていて、参照的な内容が充実していて非常に使いやすいと思いました。

次の教育図書です。それに比べてという言い方になりますが、この教科書の使い方というページがあるのですが、不親切だと感じるのです。それは、手順が明確でないところと、それから教科書の絵との対応が見にくいなどです。うまく工夫して、この教科書の使い方について、充実させていただけるといいと感じました。

安全については、先ほどお話ししましたが、この者は自分で探そうというのではなくて、こういうことに注意しましょうという形で書かれているので、見て終わってしまう。そうすると、自分の体験に結びつかないと感じましたので、その辺も工夫していただけるといいと思いました。

開隆堂出版です。この者は初めの「技術分野の学習を始める前に」が、非常に充実した内容になっていると思います。しかし、安全のところは、先ほどの東京書籍と違って、全て答えが出ていて、見るだけで終わってしまいそうだと思います。安全というのは一番注意しなければならないので、そこをきちんと書かれている点で、東京書籍のほうがいいと思いました。

それから、技術分野の学習の流れは、漫画で載っているのですが、ここまで漫画を入

れる必要あるのかと感じます。こういう手順でやっていくという、内容を考えてほしいと思いました。

各ページの左上のこのところに、いろいろな道具の写真とか、そのページに関係する写真が載っています。例えば、69ページのノギスはどこでどういうふうにするのかとか、関連した内容が多少は載っているので、写真の一覧表をつけていただくと、後で参照するときに非常に便利に使えらると思いました。その辺も工夫していただくと、さらによい教科書になりそうだと思います。

ということで、全体的に見て、武蔵野市の子どもたちにとって、東京書籍の教科書がいいのではないかと感じました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 3者を見て、開隆堂出版と東京書籍がよいと思います。

思考力・判断力・表現力の育成において、教科書の内容を見て、意見を交流できるようにというような構成という点では、東京書籍のほうがやや上かなと思いました。

まず、東京書籍です。

道具の使い方、のこぎりの特性など、よく書かれていると思います。他の工具の使い方も掲載されています。工夫をすればするほど、様々な工具を使う必要が出てきますので、丁寧な掲載がされているというのは、可能性を広げていくということによいと思います。木工作品の例がシンプルで用途がはっきりしていると。生徒がそれを例にして工夫を図ることができるので、いいなと思いました。それから、情報モラルやセキュリティにも触れています。Society5.0についても、取り上げられているのはよいと思いました。

それから、教育図書です。

のこぎりの説明がもう少し丁寧だといいなと思います。製図、木工作品の例が工夫されていて、手の込んだ作品などが掲載されています。これはいいんですけども、生徒が発想を膨らませていくという視点で考えると、あまり丁寧に工夫していると、生徒の思考を妨げることにならないか心配になりました。それから、情報分野がもう少し詳しいといいなと思いました。

開隆堂出版です。

木工作品の例がシンプルで、説明も非常に詳しくて丁寧です。製図の仕方も詳しく掲載されています。情報分野においても、今、主流となってきていますSSDとか、情報モラルにも触れられていますのでいいなと思いました。

全体を通して見ると、東京書籍かなというところですよ。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

委員も触れられたように、先日行った総合教育会議でも、先月の教育委員会定例会でも、武蔵野市では国のGIGAスクール構想を活用して、学習者用コンピュータ、1人1台端末を進めることになりましたよね。それを踏まえると、必ずしも技術・家庭だけではないですけども、情報モラル教育、むしろ先日の議論ではデジタルシティズンシップ教育のようなどころまで取り組む必要があるということを考えると、そういった情報教育の扱いについて、私も比較してみたんですが、東京書籍の質・量の厚みがあるかなと私も感じました。

では、お諮りしたいと思います。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、「技術家庭科 技術分野」につきましては、東京書籍を採択する教科書の候補としたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、技術に関わる協議を終了いたします。

次に、「技術家庭科 家庭分野」について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、「技術家庭科 家庭分野」についてご説明申し上げます。

家庭の教科書は3者です。

技術家庭科の目標及び家庭分野の目標は、資料2の7ページに記載のとおりです。

次に、採択協議会の協議では、食育の観点では、ものづくりの作例がよく考えられており、弁当のページが1食分の献立作成と食の意義を考えさせるよい構成になっている点で、開隆堂出版、教育図書がよいと考える。

教科の特性を踏まえた見方・考え方を育成する上では、持続可能な生活の中で生かし

ていくという部分では、SDGsについて取り上げていて、見方・考え方を取り上げている開隆堂出版がよいのではないか。

弁当の学習内容については、これから子どもたちにつけていくべき力であると考え、大きく取り扱っている開隆堂出版がよい。

教育図書は、弁当を作るだけでなく、電子レンジの使用の注意点や活用することについても含まれているなどの意見が出され、開隆堂出版、教育図書がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、開隆堂出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

特にないようでしたので、家庭についてご意見をお願いしたいと思います。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 小学校の家庭の教科書を見ていたときには、衣食住のことを一生懸命見ていたのを思い出すんですけども、中学校の教科書では、それだけではないところも見ていかななくてはいけないんだなということを感じながら読みました。家庭生活についても、多様性を捉えること、それから地域との関わり方、自分がどう関われるかということの捉え方、深い学びの取扱いについて教科書を見せていただきました。

東京書籍。

自分たちの成長と、家族と地域の関わりについて取り扱っています。そのことは、本当にとっても身近な問題として取り扱っているのですが、いいと思いながらも、家族の多様性と基本的な家族の機能ということについて、なかなか難しいんですけども、少しその関わりの扱いがあと一歩かなと思うところがあります。つまり、それは多様性ということについてが一番だと思いますけれども。当たり前の家族ということではなくて…、という言い方をするのも少し違うような気がするんですけども、どんな生き方を、どんな場面でも、どう求めていくかというようなあたり。その自分との関わりについての記述が、もう少し深まることを期待しています。巻末に新しく防災と減災手帳というものを、防災に関するコーナーを設けられていて、そこはとても評価いたしました。

教育図書。

教育図書は、全体としてとても温かい感じがしました。地域社会で協働という大切なキーとなる言葉の扱いがすぐに受け取れるようになっていて、そこはとてもいいなと思いました。家族と家庭というところで、誰もが知っている漫画を使って、それを紹介しているんですけども、今はそういう漫画の力を借りないと、そのことがイメージできにくいのかなということも思いながら、もう少し自然に身近なことで、家族のことを、家庭のことを捉える方法もあるのではないかという気もしています。

開隆堂出版。

開隆堂は男女ということ、それから障害のあるなしということ、子どもから高齢者という、そういうことが区別なしに、全ての人が平等であるという土台で全てのことが学べるような仕組みがつくられています。ここは本当に大事な土台で、この基盤がなければどんな問題解決も本当は目指しようもないところだと思います。例えば中学生の自分というところで、悩みの一つとして性の悩みを取り上げているんですけども、それはページ数を記して、こちらにリンクして、その例えばLGBTの問題を考えるようなことが、しっかりと連携されているのです。そして、私も教育委員になるまでは、それほどのことではないのかと思っていたんですけども、この性の問題や性の多様性の問題に直面している小・中学生が殊のほか多く、そういう存在の人たちが安心して生きていけるような環境をつくるのが、学びの中にもとても大切であるという認識の中で、この土台は揺るぎなく大切だと考えています。その意味で、衣食住のことは全然言いませんでしたけれども、開隆堂出版を推薦したいと思っています。

それから、これは3者に対して申し上げたいことなんですけれども、料理のことにしろ、衣類のことにしろ、住のことにしろ、写真の工夫がもう少しなされるといいなと思います。料理がもう少しおいしそうだといいなと思ったり、いろんなことがもう少しシンプルに、センスアップして描かれると中学生がイメージしやすいかなというところが幾つかありました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、清水委員、どうぞ。

○清水委員 家族や家庭生活について、それぞれの内容で生徒がまず自分の生活を振り返る。そして、それについて考えて、そしてクラスで学び合う、学んだことを実践してい

くということで、どのステップもみんなとても大事だなと思っています。教科書の構成として、この振り返り、そして考え、学び合う、そして実践していくという、プロセスが大事にされているかどうかを見たわけですが、3者とも工夫が感じられるんですね。ただ、一番、生徒が考えていくということを大事にできていると思えたのが開隆堂出版かなと思います。

衣食住の食のところで見たときに、様々な料理が紹介されています。3者とも非常に詳しく書かれていて、そして写真もよく撮れていますし、材料であったり、作り方であったりという、その説明も非常にいいなと思いました。これは3者が、どの会社が一番いいのかということではなくて、どの会社もそれぞれ特色があっていいなと思います。これを見て作れば、子どもでもちゃんと作れちゃうだろうなというようなことで、非常に工夫がされているなと思いました。

その食の中で感じたのは、弁当作りのところ。弁当作りは、ぜひ生徒にチャレンジしてほしいと思うわけですが、3者ともこの弁当作りにおいて、主食、ご飯ですね。それから、副菜、主菜。主食対、副菜対、主菜が3対2対1でという記述があります。いずれもイラストが出ています。非常に分かりやすいんですね。東京書籍はここに実際に作ったお弁当の例が出ているんですけども、ビビンバ風弁当なんです。これはご飯の上にビビンバが乗っているわけですから、3対2対1になってないわけなんです。3対2対1って言った以上は、そういう写真を載せてほしいと思うし、教育図書についても、3対2対1と言うんだったら、もう少し厳密にやったほうがいいかなと思いました。

開隆堂出版は、そのお弁当の写真が3対2対1になっているんですね。だから、説明と写真とが一致するようにしたほうがいいかなと思います。

教育図書で気になったんですけども、大体どこの者も安全については配慮されているなか、116ページの左下のニンジンを切る写真を見ると、薄切りにしていく状況が、見るからに不安定なのです。これはけがにつながる写真ですから、これは差し替えたほうがいいと思いました。

そんなことで3者を比較したときに、開隆堂出版が3者の中では武蔵野市の生徒にとってが一番いいかなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。



ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果から、「技術家庭科 家庭分野」につきましても、開隆堂出版を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、家庭に関わる協議を終了いたします。

次に、外国語についての協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○小澤統括指導主事 それでは、外国語についてご説明申し上げます。

外国語の教科書は6者です。

教科の目標につきましては、資料2、7ページに記載のとおりでございます。

採択協議会の協議では、三省堂は、主体的・対話的で深い学びを促す、自律的な学習をサポートする資料があり、自分自身の思いや大切なものについて伝え合うことができるのでよいと思う。

啓林館は、ターゲット文が一目で分かるようになっており、先が見通せるようになっているところがよい。

啓林館は、1ページ当たりの情報量が少ない感じはするが、しっかりと文章だけに注目でき、すっきりとしていて見やすくよい。

三省堂は、特別なページが多いので、どこに注目したらよいということが気になるが、情報量が多くて教員にも子どもたちにもよいのではないかと思うなどの意見が出され、三省堂、啓林館がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、三省堂を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問ございましたらお願いします。

質問ないようですので、外国語についてのご意見をお願いします。

はい、渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 英語は、小学校からのつながりがあり、特に小学校の段階では楽しみながら英語を学ぶということが中心で、中学校に入って、初めて4技能5領域が明確になって、「書く」「聞く」「読む」「話す」、話す中で「対話」と「発表」ということで5領域があるということになります。

教科書の中でこれらの領域がどのように反映されているのか、これは重要なところで、それが明確になっているといいと思いました。その内容を一番初めのページに、教科書の使い方等々も含めてまとめていただけると、英語でどういうことを学んでいくのかということが分かりやすくなります。そこで、その辺を中心にして拝見させていただきました。

まず、東京書籍です。4技能5領域は、各者、アイコンで示していますが、動物を使って分かりやすく示されています。目次のページは多くの情報を積み込み過ぎて、どこをどういうふうに見たらいいのかって分かりにくい。その辺を、もう工夫していただけるといいと思います。

まとめとか付録のところ、Wordリストがありますが、これは漫画とか図で書いてあって、深い学びにつながるといいと思いました。SDGsについても、3年生で取り上げられていて、この点ではいいと思います。

次に、開隆堂出版です。初めのところで「学ぶ手順」というのがありますが、PDCAのサイクルを回していくという観点で、分かりにくいと思います。その先に目次がありますが、目次は割とすっきりしていて、東京書籍と比べると非常にシンプルに書かれています。最後に、アクションカード等がついていますが、これをどのように使うのか、分かりにくいと感じました。

三省堂は、よくできていると思います。特に「この教科書の仕組み」ということで、非常にコンパクトにまとめられている。学習の手順も、うまくまとめてあって、分かりやすく示されています。

教科書の仕組みのあたりと、目次が連携しているわけですが、目次に各章の写真が入っていて、章との連携がきちんとできていると思います。巻末の単語帳ですが、三省堂で扱っている辞書をベースにした単語帳になっています。当然この教科書に出てきた例文も多く入っているし、辞書を引くときに違和感がなくつなげられると思います。巻末の付録等も、充実していて、ページ数でいくと50ページにわたってありますけれども、

よくできているなと感じました。

教育出版です。

「英語を学ぶ皆さんへ」という項目がありますが、教科書の本文と対応が分かりにくいと思います。

目次の写真は、本文で使っている写真と全然違うものが入っていて、ちょっと残念ですが、目次の作り方は、すっきりしていいなと思います。

光村図書です。「本書の構成」は、単純過ぎて、どういうことをこれから学んでいくかという情報は少なめです。帯教材というのがついているのですが、その使い方の位置づけが分かりにくくて、後で学ぼうとしたときに、どこをどのように参照していったらいいか、その辺が分かりにくいと感じました。

「Active Words」が最後にありますが、これは東京書籍の、Wordリストと同様、分類が明確で、分かりやすいと感じました。

最後の啓林館です。「この教科書の使い方」というところで、教科書の構造も示されていますが、4技能5領域との関連性が、もう少し見えるとよい。そうすると、各章でどういうことを学んでいくのか、各単元でどういうことを中心に学んでいくのかが、分かりやすくなります。その辺も工夫していただけるといいと思います。単語帳が気になりますが、Word Boxという単語帳があり、これはよくできていると思います。啓林館は、全体のページ構成がしっかりできていると思いました。アイコン等、示されている場所は統一的に書かれていて、工夫されていると思います。

総合的に考えて三省堂が一番充実しているいいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 まず、各者の教材文を見ていったときに、いい教材文が多いと思いました。

これはどこの者が特に多いというのではなくて、各者ともいい文を取り上げていると思います。、啓林館は本文が割合短くて、簡潔なのかなと思います。これはよさであり、特色であると感じました。

もう一つは、中学の英語の授業を見にいくと、昔の中学の授業に比べると、はるかに先生と生徒、それから生徒同士の会話の場面が非常に多いんです。ですから、その生徒

が1年生、2年生、3年生と学年を追うに従って、そういった会話のいわゆる蓄積をどんどん増やしていくことによって、いろんな表現ができるようになっていく。そういう教科書になっているといいと思ひまして、その視点で見えてきました。

そうすると、どの者も、結構そちらには力を入れて工夫しているんですね。例えば東京書籍で言うと、Grammar for Communicationで、繰り返し文献を学んでStage Activityで話す。これをきちんと積み重ねていけば、話せるようになっていくんだらうなと思います。

東京書籍でいうと、紙の色合いが優しくて、ページのレイアウトも割合いい。文字が多いかなという気はしますけれども、よいかなと思います。

開隆堂出版ですけれども、Scenesとって、漫画を見ながらその場の会話を考えることができる。今の子どもたちにとって、視覚に訴えるというのは、子どもたちにとっては分かりやすいと思います。ですから、とても面白い、子どもたちにとってはうれしいと思います。

それから、パワーアップというところも会話でいろいろな場面に即して応用ができるようになっている。これもいいかなと思います。

紙の色もいいなと思ひましたし、余白をうまく使って見やすい教科書になっているかなと思います。

三省堂は、Talk ActionのTalkがとってもいいなと思います。これは結構、応用が利くし、楽しんで練習できるなと思います。

それから、Reading For Information、これはテーマの設定がいいと思ひました。実際の会話の場面で生きるなと思います。色合いも見やすいと思います。

それから、教育出版は、巻末の重要構文復習リストをはじめとして、形容詞、副詞、比較変化表や不規則動詞変化表など、まとまっていて、これはとてもいいなと思ひました。

それから、光村図書出版ですけれども、実際の生活場面で使う英会話文や、例えばニューヨークを旅行して現地でありそうな状況、こういったものが本文に出てきていて、応用も利くなと思ひました。

それから、啓林館ですけれども、Let's Talkが短い会話例として出てきています。これもいろいろな場面で使えると思います。

それから、3年の本文やLead and thinkでは海外のことを知るができるよい内容

が教材になっているかなと思いました。

私は、個人的には東京書籍と開隆堂出版と三省堂が、そういった会話をスキルアップしていく、そういったトレーニングがなかなか充実しているなと思いました。

その武蔵野の子どもたちは、英語の授業を見ていても、英会話の場面でよくしゃべります。そういった武蔵野市の生徒には、発展性とか応用が利くような内容であるとか、それからボリュームですね、これは意外と大事だと思うんですね。いろいろな種類のプラクティスに取り組んでいくことによって、力を磨いていくという意味において考えると、先ほど申し上げた3者の中では三省堂がいいと思います。外国語によるコミュニケーションの育成ということを意識していくとすれば、他者の工夫もいいんですけども、三省堂の工夫、それからバリエーションの多さ、これは武蔵野市の生徒ということで考えていくと、武蔵野市の教科書には一番いいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

今いただいたご意見を伺った結果から、外国語につきましては、三省堂を武蔵野市で採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、外国語に関わる協議を終了いたします。

次に、「特別の教科 道徳」についての協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○小澤統括指導主事 それでは、「特別の教科 道徳」についてご説明申し上げます。

「特別の教科 道徳」の教科書は7者です。

教科の目標や内容項目につきましては、資料2の8ページ以降に記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、どの発行者も分量が多く、子どもたちの興味を引く工夫を多く感じた。東京書籍は字体が見やすく、分量もちょうどよいと考える。読むことではなく、みんなで考えることが必要だと思うので、あまり文章が多いと大変になって

しまうのではないかと考えた。

教育出版は目次が見やすい。何を学んで、何についての教材なのかが分かりやすい。何を話し合うのかについて、子どもたちがよく理解してから取り組めるのではないかと考えた。

また、日本文教出版は、一通り内容を見たときに、写真やイラストが多く、子どもたちの興味・関心を引くという点でよいと感じたなどの意見が出され、東京書籍、教育出版、日本文教出版がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に、質問がございましたらお願いします。

特に質問ございませんので、「特別の教科 道徳」についてのご意見をお願いします。

はい、山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 道徳の教科書については、自分の中の柱として。1つ目、いじめの問題がしっかりと取り上げられている。2つ目、多様性についての認識が置かれている。3、緩みがあるということで読ませていただきました。

この3つ目の緩みがあるというのは、先生の出番に託され、先生方が存分に魅力を発揮できるという意味で、あまりきつきつでないのがいいのではないかなという思いから、そういう視点を持って読むことにしました。

まず、光村図書。

バランスがよく、教科書がきれいですね。ゆったりと組まれていて、とても安心できました。取り上げられている教材も、はっと思うようなことがたくさんありました。3年生になって、サグラダ・ファミリアの受け継がれていく思いというところがあるんですけども、私はどういうことで完成を見ないのかなと思っていたんですけども、そうか、これは後を引き継ぐ者たちが現れ、より壮麗に命を吹き込んでくれるという意味だったんだということを学んだりいたしました。いろいろな魅力的な読み物が置かれています。ただ、しっかりとつくられているからだと思いますが、緩みが少ないので、これを一生懸命学んでいるうちに、追い込まれていく感じになるかもしれないなと思いました。

日本文教出版。

日本文教出版は、教科書の組みが窮屈かなと思いました。それから、ここはこんなにきれいな教科書を作るのに、写真や挿絵の選びがもう一つと思うところが実はありました。いじめの問題については、多面的に考えられています。そして、取り上げられている教材も、魅力的な、いいなと思うところ、そういう作品が紹介されています。紹介されている作品に共通していることは、愛情、仕事にも愛情を持つ、どんな仕事を与えられても、愛情を持つことが大事というようなことがよく伝わりました。

学研教育みらい。

学研教育みらいは、他者にはない視点を持っていると思いました。ドナルド・キーンの「日本の心と技」というようなものを読んでも、日本の文化について外国人から伝えられるというようなことは、かなり中学生にとってはショッキングなことではあると思うんですけども、この不思議さ、学びの深まりというのは、なかなかすてきで期待できる場所だと思いました。それから、ごみ収集場所をどこに置くかというような記事は、とても難しい問題だけれども、面白いと思いました。こういうことを話し合う習慣、こういうことは社会人になったらどこかで出会うことなんだけれども、こういう練習をしておくことはとても大切だなと思ったのです。それから、情報モラルのモラル教材や選挙権について、SDGsの視点などもあり、とてもよいと思いました。

廣済堂あかつき。

廣済堂あかつきは、少し何て言ったらいいのか、雑誌風な印象を受けました。これは雑誌風だから悪いというわけではなくて、もしかしたらこういうことこそが緩みというか、そういうものに、よき緩みにつなげることになるのかもしれないんですけども、でももしかしたら、少し道徳を学んでいくという目当てが、生徒にも、その場の先生にもつかみにくいところがあるかもしれないと思います。選ばれている作品はとても面白いです。

日本教科書は、中学生にとって身近な問題がたくさん捉えられているところは面白く読みました。でも、読み物も全体に自分自身を捉えることが多くて、もう少し社会に向けた読み物を選んでもいいのではないかと思います。

最後に、東京書籍ですね。

東京書籍は、何よりも議論することが目標というふうにつくられている。それを考えられているのではないかと思います。著作権の問題などが取り上げられていて、道徳

の視点として、ここに著作権の問題が置かれていることは、とてもいいなと思いました。心情円は、東京書籍の有名な付録とも言えるものですが、これは何うと学校ではよく用いられているようで、これが進化していました。とても面白い、とてもきれいだしいなと思いました。選ばれている作品には、もう少し複雑なものもあっていいかと思うところはありましたが、最もバランスが取れているのが東京書籍の教科書だったと思います。武蔵野市の中学生にとっては、このバランスと議論することの目標というのは大きいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 自分自身、人との関わり、集団社会、生命や自然という4つのカテゴリーがありますが、その分布の、バランスが取れているところがいいと感じています。各者、工夫はあるのですが、カテゴリー別の数を数えてみると、大分違うところがあります。当然、学習内容から集団社会が一番多くなっているわけですが、自分自身は、小学校段階で大分やってきていますので、少なめにして、後ろのほうを中心に構成されているといいと思いました。

もう一つは、道徳の教科書の採択が続いて見方も慣れてきていることがありますが、人物に関する例が前に比べて大分整理されてきたと思います。前はスポーツ選手が多かったのですが、それが大分整理されてきて、いろいろな職種の方々、その人の紹介が増えてきて、そういう点では各者、工夫されていると思いました。

それで、そういう観点でも見ているわけですが、細かく言うと時間がなくなってしまうので、簡単に各者の特徴を申し上げたいと思います。

まず、東京書籍です。ステップの進め方として自分の考えがあって、話し合う・深める・つなぐ、そういう4つの段階が、示されています。とくに話し合うことを中心にして進めていかなければならないわけで、先ほど山本委員もおっしゃっていましたが、議論することについての意識がかなり工夫されていると思います。

各章の最後に、「考えよう」というのと、「自分を見詰めよう」という2つの項目があって、そこにガイド的な内容が入っているのですが、ガイド的な内容というのは割と少ないのです。ここに多くのガイドを書き過ぎてしまうと、自分たちの意見が出しにく



くなる。そういうことがありますので、そういう点で東京書籍は、前から感じていますが、けれども、工夫されていると思います。先ほど山本委員がおっしゃったように、心情円をうまく継続して使えるといいと思いました。

教育出版です。考えを深めるところが非常に分かりやすく出ています。ここは他者と違って、カテゴリー別に見ると、各学年の構成が、全部同じ数ではないのです。他者は各学年で、同じ構成が多いのですが、この者は特に3年生になると生命、自然に対する項目が多くなっており、そういう点では発達段階を意識し、構成しているなというのが分かります。

光村出版です。

光村出版も、各学年、多少、カテゴリー別の数を数えると変わっているのですが、2年、3年になると自分自身という内容が増えてしまうのです。これは逆のような気もするのです。だんだん、自分から他人、他人から社会ということで、後半に増やしていくことは自然なので、その辺を工夫されるといいと思いました。目次にシーズンがあって、この対応関係が強制的になっていて分かりにくい。このとおりのシーズンで授業をやるわけではないので、工夫していただけるといいと思います。

日本文教出版です。目次に「いじめと向き合う」という項目があり、とてもいいと思います。小学校、中学校、いじめの問題は大きいので、いかにして自分たちが向き合っていかなければならないということを考えるきっかけになるとと思います。この者は分冊になっているのですが、これは自分たちが記録を、その分冊で、ノートとして使うという発想でしょうか。分冊にすると扱いにくくなるという点で、少し工夫していただけるといいと思います。

学研教育みらいです。「考えを深める4つのステップ」という項目があり、分かりやすい。気づく、考える、議論する、深める、見詰める、生かす、というステップになっていますが、それが分かりやすいということは思います。

カテゴリー別でいきますと、この者と廣済堂あかつきは、1年生に自分自身というカテゴリー多めです。その辺も構成の工夫をしていただけるといいと思います。

廣済堂あかつきです。この者のステップが分かりにくいのです。目次も単元の名称が並んでいるだけです。どのようなカテゴリーを学ぶかという点を工夫して、表示するといいと思いました。この者も別冊がありますが、これも工夫次第で本体と一体化できると扱いやすくなると思います。

日本教科書はカテゴリ別の配置がされていて、社会に対する項目が多くなっています。全体的に見てすっきりしていると感じました。

登場人物の人数で見ると、多いところで3学年を通じて合計30人以上、少ないところは16人ですね、少ないところもありますが、また一段と工夫を深めていただけると、よりよい道徳の教科書になると思います。

全体的に見て東京書籍が適していると感じました。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

今いただいたご意見で尽くされているとは思いますが、私も道徳の中では、多面的・多角的に考えるということがとても大事だと思っています。考え、議論する道徳と併せて、その観点でご意見いただいた東京書籍は、心情円の扱いとか、あるいは教材に入るタイトル周りに、あまりいろいろな情報が入らないということであると、多面的・多角的に考えるという観点からもいいかなと感じました。

それでは、お諮りしたいと思います。

皆様のご意見を伺った結果、「特別の教科 道徳」につきましては、東京書籍を採択する教科書の候補としたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、「特別の教科 道徳」に関わる協議を終了いたします。

方向性の確認ができました。

以上で、協議事項1、令和3年度使用中学校教科用図書採択についてに関わる協議を終了いたします。

これで、本日の協議事項は終了いたしました。

ここで、しばらく休憩をしたいと思います。

午後 0時49分休憩

午後 0時54分再開

○竹内教育長 休憩前に引き続き、会議を再開します。

◎議案第15号 令和3年度使用中学校教科用図書採択について

○竹内教育長 次に、議案に入りたいと思いますが、資料をお願いいたします。

もう配られています。

それでは、議案第15号 令和3年度使用中学校教科用図書採択についてを議題といたします。

説明をお願いいたします。指導課長。

○村松指導課長 それでは、議案第15号 令和3年度使用中学校教科用図書採択について、ご説明いたします。

この議案は、令和3年度から6年度に使用する中学校教科書について採択をお願いするものでございます。

それでは、議案書をご覧ください。

先ほどの協議の結果、決定いたしました種目ごとの教科書の候補につきまして確認し、説明に代えさせていただきます。

種目、発行者の順に読み上げてまいります。

国語、光村図書出版株式会社。

書写、教育出版株式会社。

地理、株式会社帝国書院。

歴史、東京書籍株式会社。

公民、東京書籍株式会社。

地図、株式会社帝国書院。

数学、東京書籍株式会社。

理科、教育出版株式会社。

音楽（一般）、株式会社教育芸術社。

音楽（器楽）、株式会社教育芸術社。

美術、日本文教出版株式会社。

保健体育、株式会社学研教育みらい。

技術、東京書籍株式会社。

家庭、開隆堂出版株式会社。

英語、株式会社三省堂。

道徳、東京書籍株式会社。

なお、採択いただきました場合、この結果につきましては、8月31日までに東京都教育委員会に報告いたします。

説明は以上でございます。

ご審議のほどよろしく願いいたします。

○竹内教育長 事務局の説明について、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

ご意見、ご質問がございませんようでしたら、皆様にお諮りしたいと思います。

議案第15号 令和3年度使用中学校教科用図書採択についてを議案のとおり決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 そのでは、そのように決定いたします。

---

#### ◎閉会の辞

○竹内教育長 これをもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

令和2年第6回教育委員会臨時会を閉会いたします。

本日はお疲れさまでした。

午後 0時58分閉会